

あこの
しごとうた・わらべうた



赤穂市教育委員会

表紙題字
赤穂市長 笠木忠男

赤穂の

しごとうた・わらべうた



赤穂市教育委員会

序

赤穂市教育委員会では、地域伝承文化の振興の一環として、昨年度に引き続き、「赤穂の民謡」の調査収録を実施しましたが、私たちの身のまわりに生活の歌が実に豊富に残っていることが分かりました。

今回収録しました「赤穂緞通織唄」や「浜鋤唄」は、赤穂ならではの唄であり、唄を通してそこに働く人々の思いや哀歓にふれることができます。

これらの歌は、赤穂の風土や習慣ととけあい、それぞれの風俗・民俗を反映したさまざまな生活や心情などを読みとることもできます。

また、今回新たに赤穂市内の校歌・記念歌もつけ加えることができました。永らく親しまれてきた小学校唱歌「こいのぼり」「村のかじや」などは、昔の自然や風情をよく表現していたと思われませんが、万事機械化・オートメ化した現代の子供には理解しにくいところもなきにしもあらずで、今となっては懐かしいものとなりました。

なお、昨年 の冊子刊行を契機に、各地域で声高く歌い継がれ、歌声の広がる気運が生まれてきましたことは、まことに喜ばしいことでもありますし、まだまだ数多くの唄が残されていることと思われま すので、今後とも、そのような貴重な資料をご提供くださることを切望しています。

最後になりましたが、昨年度に引き続き収録採譜にあたっていただいた赤松秀幸、友道令江子両先生をはじめ、採集協力をいただいた市内各学校園関係者ほか多くの方々に厚くお礼申しあげる次第であります。

昭和61年3月31日

赤穂市教育委員会

教育長 木山正規

はじめに

民謡は、四季を背景にして先人からうたい伝え、聴き伝えて、口うつしによって継れてきました。ときには踊り継れてきたものもあります。それだけに、「しごとうた」「わらべうた」などは、他のうたには見られないわたしたち祖先の偽りない生活の息吹きと体臭を感じさせてくれます。

しかし、これら歴史文化遺産である民謡は、近年の生活環境の変化や社会意識の変化によって、伝承継承が次第に困難になり、伝承文化を継承する機会が少なくなっていることは、憂慮にたえません。

今回の赤穂の民謡調査も、例外でなく調査探索することが、数年前と比較して非常に困難になってきていることがうかがえました。

また、今回の校歌についても、それぞれの地域に支えられた教育的環境やそれぞれの学校における教育の理想がこれらの学舎で多くの人達によって謳われ、継承されてきました。

戦前、戦後を通して教育の理念やその制度及び指導内容が変遷していく中で、校歌もまた変遷の道を歩むことになるのであるが、これら校歌を謳歌する中で人々の心の中に学校愛、郷土への愛が育まれていったものと考えられます。

そこで、この冊子の発刊を機に、家庭で、地域社会で、学校現場で広く活用され、歌い継がれていくことを期待します。

なお、昨年調査も併わせて、友道令江子先生には精力的に調査活動していただき、厚くお礼申しあげる次第です。

最後に、清書にあたってくれた茶谷雅子・福井良実両氏、さし絵をいただいた河部昌弘氏に深く感謝します。

昭和61年2月20日

赤松秀幸

目 次

序

はじめに

しごとうた (労作歌)

- 1 わたしゃ赤穂の (浜鋤うた) 1
- 2 朝ま早ようから (浜鋤うた) 3
- 3 いやというのに (緞通織うた) 4
- 4 うすよひけひけ (粉ひきうた) 5
- 5 ヤーエーこのナーエ (石つき音頭) 5
- 6 お前百まで (石つきうた) 7
- 7 アアこれはこの家の (石つきうた) 7
- 8 日が照れ照れ (行商のうた) 8
- 9 お賽銭こ賽銭 (行商のうた) 9
- 10 いやじゃいやじゃと (田植えうた) 9

わらべうた

- 11 中の中の小坊さん (あそびうた—なわとびうた) 10
- 12 草履かくし十年坊 (あそびうた—草履かくしうた) 10
- 13 一つとや (あそびうた—かぞえうた) 11
- 14 坊さん坊さん (あそびうた) 12

祝いうた

- 15 アヨイサーエーアラ播州さん (伊勢音頭) 13
- 16 私しゃナー (長持うた) 14
- 17 箆筒ナー (長持うた) 15
- 18 高い山から (祝いうた—お座敷うた) 16

祭りうた

19	坂越の船壇尻（下り）	17
	坂越の船壇尻（祇園囃子）	17
20	アラ目出たナ（御船歌）	18
21	天和の獅子舞（お車）	21
22	シャリーホーエーうれしゅう（屋台音頭ーやたいのうた）	23
23	シャリーホーエーソコジャイナー（屋台音頭ーやたいのうた）	24
24	シャリーホーエーソコジャイナ（屋台音頭ーやたいのうた）	25
25	シャリーホーエーうれしゅうエー（屋台音頭ーやたいのうた）	26
26	ハー鶴がナーエー（屋台音頭ーやたいのうた）	27
27	目出たナエー（屋台音頭ーやたいのうた）	28

歳時うた

28	ハリショーエー（曳きとんど音頭）	29
29	アー盆はうれしや（仏教音頭ー盆踊り）	31
30	ペッタンペッタン（もちつきのうた）	32
31	春の曙花なら桜（赤穂音頭）	33
32	丁度今から（播州音頭）	34

記念うた・校歌・応援歌・その他

33	潮かがやく瀬戸内に（赤穂市歌）	35
34	清き流れは（赤穂市連合婦人会会歌）	36
35	君の恵に（四十七士の歌）	37
36	庭の桜は（義士追慕の歌）	38
37	春は桜の（少年赤穂義士音頭）	39
38	吹く風（月の赤穂城）	39
39	アー時なれや（赤穂鉄道のうた）	40
40	赤穂よいとこ（入り浜塩田寄せ子唄）	41
41	二月三月花ざかり（梅干のうた）	41
42	二月三月花ざかり（梅干のうた）	42
43	八幡さんの神主が（青年団応援歌）	43
44	負けるも勝つも（応援歌）	43

45	見よや見よ (応援歌)	44
46	ああ青春の (応援歌)	45
47	サンキュー (応援歌)	46
48	わきあがる (東京オリンピック壮行の歌)	47
49	千種の川の (赤穂幼稚園園歌)	48
50	城にあおあお (城西幼稚園園歌)	49
51	黒鉄山に (塩屋幼稚園園歌)	50
52	光きらめく (赤穂西幼稚園園歌)	51
53	お日様のぼる (尾崎幼稚園園歌)	52
54	生島の (坂越幼稚園園歌)	53
55	朝は千種の (高雄幼稚園園歌)	54
56	きよめの庭の (あけぼの幼稚園園歌)	55
57	高く聳える (赤穂小学校校歌)	56
58	城あとの (城西小学校校歌)	57
59	見はるかす (塩屋小学校校歌)	58
60	みどりの山に (赤穂西小学校校歌)	59
61	千種の流れ (尾崎小学校校歌一旧一)	60
62	千種の流れ (尾崎小学校校歌一新一)	61
63	空は高いよ (御崎小学校校歌)	62
64	朝雲高し (坂越小学校校歌)	63
65	空が空が (高雄小学校校歌)	64
66	大鷹山の (有年小学校校歌)	65
67	蟻無山の (原小学校校歌)	66
68	坂越おもえば (坂越小唄)	67
69	高雄よいとこ (高雄音頭)	68
70	みなもと遠き (赤穂中学校校歌)	69
71	ゆく水清き (赤穂蓼洲中学校生徒歌一旧一)	70
72	庭のさくら (赤穂中学校生徒歌一新一)	71
73	燃えあがる (赤穂中学校野球部応援歌)	72
74	春は春は (赤穂西中学校校歌)	73
75	晴れゆく空の (赤穂西中学校生徒会歌)	74
76	しずかに潮は (赤穂東中学校校歌)	75

77	坂越高雄の（坂越中学校校歌）	76
78	水よ時よ土よ（坂越中学校生徒歌）	77
79	空に結ぶ我等（坂越中学校応援歌）	78
80	緑に映ゆる（有年中学校校歌）	79
81	風さわやかに（兵庫県立赤穂高等学校校歌）	80
82	色さびし（兵庫県立赤穂高等学校四十周年記念讃歌）	81
83	丹きころは（兵庫県立赤穂中学校校歌）	83
84	高き希望に（兵庫県立赤穂高等女学校校歌）	84
85	赤穂城頭（兵庫県立赤穂中学校剣道部の歌）	85
86	瀬戸の島じま（兵庫県立赤穂養護学校校歌）	86
87	夢を求めて（兵庫県立赤穂養護学校行進歌）	87

付

1	吾等の通える（塩屋小学校の歌）	88
2	吾等の住める（塩屋村の歌）	88
3	かすみて見ゆる（御崎小学校運動歌）	88
4	北に聳ゆる（坂越尋常高等小学校運動唱歌）	89
5	我が大君の（高雄小学校校歌）	89
6	家は一列（高雄名所）	90
7	おはよう（婦人のつどい）	90
8	普門院から（有年小唄）	91
9	道をはさんで（田舎の四季）	91

付 録

赤穂地方の民謡採譜について

赤穂地方の民俗芸能

あとがき

しごとうた (労作歌)

1. わたしや赤穂の (浜鋤うた)

わたしや あこう のしおはま そだち
 ち アラ しおはま そだち しお
 のからいのは アまづごめん
 おもしろ やイヤ ノー ヒョウタン ヨ くるか
 くるか とはまへでて みれば アラはまへでて
 みれば はまのまつかぜの
 なみばかり おもしろ やイヤ ノー ひょうたんよ

1. わたしや赤穂の塩浜育ち アラ 塩浜育ち
 塩のからいのはの ホイホイ まずご免 おもしろや
 ヤレコラノー ヒョウタンヨ アヨイヨイ
2. めでためでたが三つ重なりて ソラ 三つ重なりて
 鶴がご門にの ホイホイ 巣をかける おもしろや
 ヤレコラノー ヒョウタンヨ アヨイヨイ
3. 来るか来るかと浜へ出て待てば アラ 浜へ出て待てば
 浜の松風の ホイホイ ソラ 音ばかり
 ヤレコラノー ヒョウタンヨ アヨイヨイ

4. 歌の上手は姫路のご家中 ソラ 姫路のご家中
聞けば殿様の ホイホイ 歌の神 おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヨ アヨイヨイ
5. わしとお前はお倉の米よ アラ お倉の米よ
いつか世に出ての ホイホイ ままとなる おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヨ アヨイヨイ
6. 娘島山に蝶々がとまる アラ 蝶々がとまる
とまるはずだよの ホイホイ 花じゃもの おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヨ アヨイヨイ
7. 尾崎、新浜午旁の煮しめ アラ 午旁の煮しめ
色が黒うてもの ホイホイ 味が良い おもしろや
イヤノー ヒョウタンヨ アヨイヨイ
8. 春の日長に牛追いこんで アラ 牛追いこんで
浜鋤音頭の ホイホイ 声がする おもしろや
ヤレノウ ヒョウタンヨ アヨイアヨイ
9. 牛が来たなら後へ寄れさまよ ソラ 後へ寄れさまよ
後へ寄らなきやの ホイホイ 日が暮れる おもしろや
ヤレノウ ヒョウタンヨ アヨイヨイ
10. 赤穂御崎の名残りの松よ ソリヤ 名残りの松よ
葉越しに見えるのは ホイホイ アラ 小豆島 おもしろや
イヤノウ ヒョウタンヨ アヨイヨイ
11. 赤穂よいとこ浅野の城下 アラ 浅野の城下
櫓下へとの ホイホイ ソラ 汐がつく おもしろや
イヤノウ ヒョウタンヨ アヨイヨイ
12. 御崎山には蛇がおるそうな ソリヤ 蛇がおるそうな
おおけな蛇やそうな ホイホイ ア うそじゃな おもしろや
ヤレノー ヒョウタンヤ アヨイヨイ
13. わしとお前は羽織の紐よ アラ 羽織の紐よ
堅く結んでの ホイホイ アラ 胸に抱く おもしろや
ナンジャイナ ヒョウタンヤ アヨイヨイ
14. 下へ下へと枯木を流す ソラ 枯木を流す
流す枯木にの ホイホイ 花が咲く おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ アヨイヨイ
15. 西は大黒東はえびす ソラ東はえびす
お家繁昌の ホイホイ 守り神 おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ アヨイヨイ

○4、5月頃から牛により、鋤鉾で鋤くときの唄である。
この唄は、坂越で「麦打唄」塩屋では「田植歌」として
歌っている。

小川政孝 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年8月12日)
赤松秀幸 採譜

2. 朝ま早ようから (浜鋤うた)

あさまー はよーか — — らーへ こめしごー さ げ —
 て ソラー こめしごー さ げ — て アー — は まー
 が — よー い — — のホイホイア ほ どー の — よ さ
 おもしろ や イヤー — ノ — — ヒョウ タン ヤ アヨイヨイ ヨイトヤ

1. 朝ま早ようから 米しご(四合)さげて ソラ 米しご(四合)さげて
 アー浜通いの ホイホイ ほどのよさ おもしろや
 イヤノウ ヒョウタンヨ アヨイヨイ ヨイトヤ

2. わたしゃ 赤穂の 塩浜育ち アラ 塩浜育ち
 アー塩からの ホイホイ まずご免 おもしろや
 ヤレコラ ヒョウタンヨ アヨイヨイ ヨイトヤ

松下松太郎 うた
 赤松秀幸 採集
 (昭和40年8月19日)
 赤松秀幸 採譜



3. いやというのに (綴通織うた)

いやと いうのに むりか-ら いれ-て サ
 いれて なかそうぞ- - - かごの と-りサ-

1. いやというのに無理から入れてサ
入れて鳴かそうぞ 籠の鳥サ
2. 籠の鳥でも時節を待てばサ
籠の破れる 折がくるサ
3. 歌え歌えとせきたてられてサ
歌もでませぬ 足が出るサ
4. 歌いますけどまだ若鳥でサ
声がとどかぬ すまざまにサ
5. 歌いなされよどなたによらずサ
歌うてご器量が さがりやせぬサ
6. 松とつけなよ男の子ならサ
松は世上の 門に立つサ
7. まるい玉子も切りよで四角
もののゆいようで 角が立つサ



藤本いか うた
 赤松秀幸 採集
 (昭和40年8月19日)
 赤松秀幸 採譜

4. うすよ ひけひけ (粉ひきうた)

う す よ ひ け ひ ー け ー だ ん ご し て ー く ら し ょ う ひ
 か ん も の に ー は ー み せ て ー お く ー く み せ て お ー く ー ひ ー
 か ー ん ひ か ん も の に ー は ー み せ て ー お ー け

うすよ ひけひけ 団子して 暮らしよう

引かん者には 見せておく 見せておく

引かん 引かん者には 見せておけ

折田浜治 うた
 赤松秀幸 採集
 (昭和40年6月5日)
 赤松秀幸 採譜

5. ヤーエー このナーエ (石つき音頭)

ヤ ー エ ー ー ー この ナ ー エ や
 し き ー ー は (ア ヨ イ ヨ イ) め で ー ー ー た ー ー
 い ー ー や し ー ー き ア ラ ヨ ー イ セ コ ー ラ
 セ し ち ふ ー く じ ん が ナ ー ー ー エ そ ろ ー ー ー ー

ーてーやんでサ つーなをひーく ヤ
ヤ ヤートセ ヤ ヤ ヤートセ アラ やー
ー えー さー ー くらー ナー エさん がー
つ(アヨイヨイ) あやー めはー ごがー つ(アラ
ヨーイセ コーラセ) アこのやのナー エいしー
つー きゃー よんー でサ はちがー つー
じゃ それは ヤ トーコセー ノヨ イーヤ
ナ ヤ ヤ ヤートセ ヤ ヤ ヤートセ

1. ヤーエー このナーエ 屋敷は アヨイヨイ

めでたい屋敷 アラヨーイセコーラセ

七福神がナーエー 揃えてやんでサ 綱を引く

ヤヤ ヤートセ ヤヤ ヤートセ

2. アラ 八重桜ナーエ 三月は アヨイヨイ

あやめは五月 アラヨーイセコーラセ アラこのやのナーエ

石つきゃ よんでサ 八月じゃ それは

ヤトーコセーノヨイーヤナ

ヤヤ ヤートセ ヤヤ ヤートセ

小川政孝 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年8月12日)
赤松秀幸 採譜

6. お前百まで (石つきうた)

おまえひやくまで わしゃくじゆくまで ソラわしゃくじゆくまで

とーもにー しーらーがーの よホイホイはー えーるー までおもしろや

ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイ ヨイヨイ

1. お前百まで わしゃ九十九まで ソラ わしゃ九十九まで
共にしらがのよ ホイホイ はえるまで おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイヨイヨイ
2. 来るか来るかと 浜へ出て見れば ソラ 浜へ出て見れば
浜の松風よ ホイホイ 音ばかり おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイヨイヨイ
3. 歌いますけれど まだ若鳥で ソラ まだ若鳥で
声が届かぬよ ホイホイ すまづまに(すみずみに) おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイヨイヨイ

井筒高男・出口孝司 うた
東有年老人会 採集
(昭和61年1月28日)
友道令江子 採譜

7. アアこれは この家の (石つきうた)

アア これは この や のーエ だいこく ば しーら ソリヤ

だいこくー ば しーら えびすーだ いこーくのホイホイ

ふくー のーかみーおもしろや アナ(ン)ジャイ(ノ)ーヒョウ(タ)ン(ヤ)ア(ヨイ)シ(ア)ヨイ(シ)

1. アア これはこの家の大黒柱 ソリヤ 大黒柱
えびす大黒の ホイホイ 福の神 おもしろや
アーナンジャイノ ヒョウタンヤ
アーヨイショ アーヨイショ
2. アア 屋根はカヤぶき桧の御殿 ソリヤ 桧の御殿
裏にゃ米倉の ホイホイ ぜにの倉 おもしろや
アーナンジャイノ ヒョウタンヤ
アーヨイショ アーヨイショ
3. アア 前の庭には金銀砂子 ソリヤ 金銀砂子
鶴と亀とがの ホイホイ 舞を舞う おもしろや
アーナンジャイノ ヒョウタンヤ
アーヨイショ アーヨイショ



○「石つき音頭」や「石つき唄」は、家を建造するときに土台を築くときの労作唄で、各地に多くきくことができる。「楽譜5」は類似曲が見当たらないが、石つき唄は、各地に多くきかれる。

平岡豊治 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年10月27日)
赤松秀幸 採譜

8. 日が照れ照れ (行商のうた)

ひ が て れ て れ て ん の う じ て ん の や ま か ら て っ て こ い

お お こ の さ き に つ な つ け て エ ン ヤ ラ エ ン ヤ ラ ひ て こ い

日が照れ照れ 天王寺 天の山から 照って来い
おおこの先に 綱つけて エンヤラ エンヤラ 引て来い

西中正次郎 うた
塩屋東老人会 採集
(昭和61年1月24日)
友道令江子 採譜

9. お賽銭 ご賽銭 (行商のうた)



おさいせん こさいせん しりが ひよっこりでました なんぼ ほど でました ひょうたんほどでました



ひょうたんのしりに あちちをすえて あちやかなしや かなぼとけ



ふかい かわに はめよか あさい かわに はめよか やっぱりあさい かわに ド布林コ

お賽銭 ご賽銭 尻がひよこり 出ました
 なんぼほど出ました 瓢箪ほど出ました
 瓢箪の尻に あちちをすえて
 あちや 悲しや 金仏
 深い川に はめよか 浅い川に はめよか
 やっぱり 浅い川に ド布林コ

西中正次郎 うた
 塩屋東老人会 採集
 (昭和61年1月24日)
 友道令江子 採譜

10. いやじゃ いやじゃと (田植えうた)



いやじゃ いやじゃと はた - け - の - い - も - は



こうべふり ふり こが - - で - き - た

いやじゃ いやじゃと 畑のいもは
 首^{こうべ} ふりふり 子ができた

出口孝司 うた
 東有年老人会 採集
 (昭和61年1月28日)
 友道令江子 採譜

わらべうた

11. 中の中の小坊さん (あそびうた—なわとびうた)



な かの な かの こ ぼん さん なで で せ が
ひ く い お や の え び とつ て
そい で せ が ひ く い たてつ て みよ
すわつ て みよ う しろ に おる もん だ ー れ

中の中の小坊さん なんて背が低い
親の海老取って そいで背が低い
立てってみよ 座ってみよ
後に おるもん だれ

赤穂高等学校生徒 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年9月8日)
赤松秀幸 採譜

12. 草履かくし 十年坊 (あそびうた—草履かくしうた)



じょうり かくし じゅうねんぼう はしのしたの ねずみが じょうりをくわえて
チュッチュックチュ チュッチュックまんじゅうだれがくた だれもくわへん わしがくた

草履かくし 十年坊 橋の下のねずみが
草履を食わえて チュッチュックチュ チュッチュック まんじゅう 誰が食た
誰も食わへん わしが食た

赤穂高等学校生徒 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年7月2日)
赤松秀幸 採譜

13. 一つとや (あそびうた—かぞえうた)

ひとつとや— ひとびとちゆうぎを だいいちに
 だいいちに あおげばたかき— きみのおん—
 くにのおん

- 一つとや 人々忠義を第一に 第一に
 仰げば高き 君の恩 国の恩
- 二つとや 二人の親御を大切に 大切に
 思えば深き 父の愛 母の愛
- 三つとや 幹は一つの枝と枝 枝と枝
 仲よく暮せよ 兄弟 姉妹
- 四つとや よき事互に進め合い 進め合い
 よき友選びて まじわれよ 親しめよ
- 五つとや いつわり言わぬが 子供等の 子供等の
 学びのはじめぞ 戒めよ つつしめよ
- 六つとや 昔を考え今を知り 今を知り
 無理なく楽しく 生きようよ 暮そうよ
- 七つとや 難儀をする人見る時は 見る時は
 力の限り 勞われよ 哀れめよ
- 八つとや 病は口より入ると言う 入ると言う
 飲物食物気をつけよ 心せよ
- 九つとや 心は必ず高くもて 高くもて
 たとえ身分は低くとも 軽くとも
- 十とや 遠き祖先の教えをば 教えをば
 守りて尽せよ 家の為 人の為

小国政江・榊静恵・矢野てるゑ うた
 上飯屋老人会 採集
 (昭和61年1月24日)
 友道令江子 採譜

14. 坊さん 坊さん (あそびうた)

ぼんさん ぼんさん どこいくの これからおやまへ
しばかりに そんなら わたしも つれしゃんせ
おまえらが いたら じゃまになる カンカン 坊主
カンぼうず うしろに だれがおる

坊さん 坊さん どこ行くの

これから お山へ 柴刈りに

そんなら 私 も 連れしゃんせ

お前らが いたら 邪魔になる

カンカン 坊主 カン坊主

後に 誰が おる

赤穂高等学校生徒 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年9月8日)
赤松秀幸 採譜

祝いうた

15. アヨイサーエーアラ播州さん (伊勢音頭)

ア ヨ イ サーエー アラ ばんしゅうさん あすは おたちかー
 いかがでー す アラ ドッコイ いちやの と ---りゅう---がねが いたー
 い アラ ドッコイ ア いち-やの と ---りゅうが かのおたーら
 わたし がー このやをーぬけてでーて みや-がわ ばし-までー
 おくりま-しよーエ みやがわ ばし-の -エ まんな かでー
 もみじの- はのよーな てをつい-て --- いとより-ほそき-
 こえをあ-げ --- も-し ばんしゅうさん- ごきげん よろしく-
 おしずか-に みちにて おけ-が-の ないよ ---に ---
 ごえん-あつ た-ら またらい -ね-んの- らいはる-
 も -エ ばんしゅうさんがく-る-や-ら こないや-ら わたしが

このやーに いるやーらー いやんやーらー --- おもえ ば
 なみだ が ヨーエとー ばんしゅうさーん さ き に---たー つ

アヨイサーエー アラ播州さん 明日は お立ちか いかがです アラドッコイ
 一夜の逗留が 願いたい アラドッコイ ア 一夜の逗留が かのおたら
 私が この家を 抜けて出て みやがわ橋まで 送りましょうエ
 みやがわ橋のエ まん中で 紅葉の葉のような 手をついて
 糸より細き 声をあげ 申し播州さん ご気嫌 よろしく お静かに
 道にて お怪我の ないように 御縁あったら また来年の来春もエ
 播州さんが来るやら 来ないやら 私が この家に いるやら いやんやら
 思えば 涙がヨーエと 播州さん 先に立つ

田淵吟三 うた
 赤松秀幸 採集
 (昭和40年6月5日)
 赤松秀幸 採譜

16. 私しゃナー (長持うた)

わたしゃナ --- ゆきま --- す
 みなさまーさらー --- ば
 今度ーナ --- 来るときやよ
 きやくで --- 来るが --- エ

私しゃナー ゆきます 皆様さらば
 今度ナ 来るときやよー 客で来るがエ

高見一三 うた
 東有年老人会 採集
 (昭和61年1月28日)
 友道令江子 採譜

17. 箏笛ナー (長持うた)



たん すー ナ ー ー なが もー ち (ヤレヤレ)

ー) な な さ おー や さ ー ー を ー ー あ と の ー ー ナ

ひゃくまんりょーうーエ ヤレ ふ ね に ー つ む ナー エ (アアシ コイ シ コイ)

嫁入りの荷を受けとるときに歌われる唄

1. 箏笛ナー 長持 ヤレヤレ
七棹八棹 あとのナ
百万両 ヤレ船に積むナーエ
アアシッコイシッコイ
2. 荷物ナー たしかに ヤレヤレ
預りましたエ めでたくナ
ご先方へ ヤレ届けますナーエ
アアシッコイシッコイ
3. 心ナー 尽して ヤレヤレ
数数にまつい 祝いナ
納めましょう ヤレ宝船じゃーエ
アアシッコイシッコイ
4. 嬉しゅナー めでたの ヤレヤレ
若松様はエ 枝もナ
栄える ヤレ葉も茂るナーエ
アアシッコイシッコイ
5. お前ナー 百まで ヤレヤレ
わしゃ九十九まで 共にナ
白髪のヨ ヤレはえるまでナーエ
アアシッコイシッコイ

出立ちのときに歌われる唄

1. さらばナー さらばで ヤレヤレ
双親様エ ながのナ
お世話にヨ ヤレなりましたナーエ
アアシッコイシッコイ
2. めでたナー めでたで ヤレヤレ
みたててもろうて 今度ナ
来るときゃヨ ヤレ客でくるナーエ
アアシッコイシッコイ
3. 蝶よナー 花よで ヤレヤレ
育てた娘 五色のナ
雲にてヨ ヤリヨ繰り出すナーエ
アアシッコイシッコイ
4. ここのナー 娘は ヤレヤレ
谷ごの水よエ 出たらナ
再びヨ ヤレかえりやせナーエ
アアシッコイシッコイ

嫁が新郎宅へ着いたときに歌われる唄

1. どこかナー どこかと ヤレヤレ
あんじていたがエ ここがナ
わが家かヨ ヤレなつかしやナーエ
アアシッコイシッコイ
2. きたぞナー きました ヤレヤレ
お舅様エ どうぞナ
よろしくヨ ヤレたのみますナーエ
アアシッコイシッコイ
3. 花のナー 蕾で ヤレヤレ
故郷をでたが 今宵ナ
この家でヨ ヤレパッと花を咲かすナーエ
アアシッコイシッコイ
4. 娘ナー 子でない ヤレヤレ
嫁こそ子なり 嫁はナ
末期のヨ ヤレ水くれるナーエ
アアシッコイシッコイ

その他の歌詞

1. 旦那ナー 大黒 ヤレヤレ
おかみさんはえびす 一人ナ
できた子は ヤレ福の神なれーヨ
アアシッコイシッコイ
2. 婿よナー 喜べ ヤレヤレ
お前の嫁はエ 仕事ナ
ようするナ 愛嬌者ナーエ
アアシッコイシッコイ
3. 桜ナー 芍薬 ヤレヤレ
坐れば牡丹 歩くナ
姿はヨ ヤレ百合の花ナーエ
アアシッコイシッコイ
4. 下へナー 下へと ヤレヤレ
枯木を流す 流すナ
枯木に ヤレ花が咲くナーエ
アアシッコイシッコイ

小川政孝 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年8月12日)
赤松秀幸 採譜

18. 高い山から (祝いうた—お座敷うた)

The image shows two staves of musical notation in G-clef, 7/8 time. The first staff has lyrics: たかい やまー からー たにぞ こ 見ればよ ヨイヨイ. The second staff has lyrics: うり や なすー びの はなざ かりよ ハレワ ヨイヨイヨイ コレワ ヨイヨイヨイ. There are two 'x' marks at the end of the first staff.

1. 高い山から 谷底見れば ヨイヨイ
うりやなすびの 花ざかり
ハレワ ヨイヨイヨイ コレワ ヨイヨイヨイ
2. 高い山から 低い山見れば ヨイヨイ
高い山より 低ござるよ
ハレワ ヨイヨイヨイ コレワ ヨイヨイヨイ

高見一三・井筒高男 うた
東有年老人会 採集
(昭和61年1月28日)
友道令江子 採譜

20. アラ 目出たナ (御船歌)



ア ラ め で た ナ う れ し お め で た エ ノ エ ノ
 ワ そ れ わ か え だ エ も エ さ か ノ え だ コ エ ノ
 は エ も き み が よ わ ひ さ し か える ベ き
 た め し に は か ね て な が め を す み よ し の ま つ お
 め で た いや い れ エ わ か え だ も ア ウ エ
 さ エ が え 伊 ヨ エ オ ウ
 エ ま ず み よ は る は う ぐ い す の う め の こ え だ
 に は を や す め エ は つ ね つ ぐ る お り か ら に
 く も な く す ず め は そ ら に な き エ き ぎ す の ベ
 に ほ う つ い エ お り か ら ま つ に い せ い の
 き み の ね を や し ら む エ さ わ べ に ひ と た ん ぼ ぼ エ イ の

出し歌

アラ 目出たナー うれしおめでたエーノーエ
ノワ それわか枝エもエさかノ枝コーエーノー葉エも
きみがよわひさしかえるべき ためしには
かねてながめを 住吉の松 おめでたいやいれイエー
わか枝もアウエー さエかえイヤーヨエー オーウ

春

エイ先ずみよ春は鶯乃 梅のこえだに羽をやすめ エイ初音告ぐるおりからに 雲なく雀は空に鳴き エ
雉子野辺にほうつ エイおりから松に 一声の君のねをやしらむ エイ沢辺にひとたんぼぼエイの イエ
まつ花菖蒲かきつばた エイヤヨエイヤ この土筆土筆 エイ春の野辺をけふはきつそふ 若草野辺さま
もこまれる我もまた エイこもるぞばん花やざつそふの 露が命 エイチ里ち里くさのさくまでも エイ
いつまでかぜにほうらせ 兎角浮世は夢なれや コノこんどゴエノざらば 持来ア来てヤたもれ花のふじ
が うたが袖にほほふ梅花や桜ばな ひとえだ折たしヤレ エイきはアなれサヨエがたなイヤオエきの

夏

なつもなれば面しろや さても涼しき庭の面に エイながめあかぬ糸柳 エイ花桜木に松楓四方かかりの
鞠の曲 イヤは里やとたんの寿里うつぼんへ 衣紋袖ずりうつづき エイトんたたりんと 延た沓下で
はつとはづんだ高足わ エイさてきてまつは面しろや エイ雲井にひよつと郭公 エイヤヨヤヨ コノぼ
んそんかけよとや 鳴く鳴きて行く ほふきそふいな エイおさへたぼんのいけんぞや エイ水鶏が叩く
をみすま戸 よいのやくそくなけれ エイ叩くとよもあけまいな ねむたしや ヤレエ待待て夜半来

秋

あきの寝覚に物を問 エイそことも知らでゆき暮れて 一夜仮寝の草枕 エイ軒端に集く虫の声 エイ物
淋敷は秋こそと エイいづれ草に露おきて エイ言葉の花も古しへも エイヤヨヤヨ コノ今もかわら
ぬ物を問い 語る間に早秋の夜の月の行くえにみよしのの たのむを雁の一言も エイながながとふく音
信て エイ何くに羽を休むらん 君が方へと遣文を エイなにとか云うて藻塩草 エイかき集めたるか
ひもただ エイ命のうちに有れかしと 折る心は初瀬山 エイ尾上の鐘の夕暮を よそにききや吾が心ナ
レヨ 秋の紅葉は散々に 鹿の声聞く嬉しさよ そまじこいには ヤレエイシナ いきてよしなおれ

冬

エイ冬にもなれば世の中の 人は心は住替て 里んしゃしんし エイほうれいの賀峯にふれ こたまたに
より 里んしゃさんしやくのおとをかへす エイ阿つぱればにもさもあらじ エイヤヨヤヨ コノ雪や霰
や氷ななどとかれども エイ解れば同じぐわんらいす イエ只ぬれぬれてよひものぞ イヤ槿花一日の
エイヤ志してはさてはぐわんらいす いやそれささそうたそうたぞへ 吹よ松風上れよ簾の 今の小歌乃
主見たや 繁松山ざざんざと うたふ小歌も面しろやヤ

止歌

目出たいな御代は 目出ためいいや いれええ はわかいや 枝だあしもおいさよ系やよえ



井筒勘治郎・福田大治郎 うた
赤松秀幸 採集
(昭和40年10月7日)
赤松秀幸 採譜

21. 天和の獅子舞 (お車)

笛

唄

アラ ヨ - サ - よ どの が わ - せ -
 の わ し は み - ず - - ぐ - - る - -
 - - ま ア - ヨ - イ セ - - コ - ラ セ だ

れ を ヨーイ まつ や ら ヨイヤ コリヤ ー くる ー
 ー くる ー と サ ッ サ ー ヤ ン ト コ セ
 ー ー ー ノ ヨー ー イ ヤ ナ ア ア レ ワ ト サ ッ サ
 コ レ ハ ト サ ッ サ サ サ ー ナ ン ー デ ー モ セ

アラヨーサー

淀の川瀬の わしは水車

アーヨーイセ コーラセ

誰を ヨーイ 待つやら

ヨイヤコリヤ

くるくると

サッサ

ヤントコセーノヨーイヤナ

アアレワトサッサ コレワトサッサ

ササーナンデーモセ



天和獅子舞保存会 うた
 赤松秀幸 採集
 (昭和43年10月25日)
 赤松秀幸 採譜

22. シャリーホーエーうれしゅう (屋台音頭—やたいのうた)

シャリーホーエー

うれしゅうめでたーのヨイヤセー

わかまつさまはドッコイセ

えだもーさかーゆ

シャリーホーエー

うれしゅう 目出たの ヨイヤセー

わかまつさまは ドッコイセ

枝も 栄ゆ

御崎東屋台保存会 うた
赤穂民俗研究会 採集
(昭和60年10月13日)
友道令江子 採譜

23. シャリホーエーソコジャイナー (屋台音頭—やたいのうた)

シャリホーエー ソコジャイナー

きよーはエー うれしや

みさきそんのーまつーり ドッコイセ

けんかこうろんのせぬように

どなたも

シャリホーエー ソコジャイナー

今日はエー うれしや

御崎村の祭り ドッコイセ

喧嘩口論のせぬように どなたも

御崎東屋台保存会 うた
赤穂民俗研究会 採集
(昭和60年10月13日)
友道令江子 採譜

24. シャリーホーエーソコジャイナ (屋台音頭—やたいのうた)

シャリーホーエーソコジャイナ

ころーはーげんろーーくヨオイヤセ

じゅーとーごねーんヨオイヤセコオラセ

じゅうにがつかばのじゅうよつか

しじゅうしちしのますらおが
(もののおが)

きらのやしきにーらんにゆうして

やまとかわとのーあいことば

うちたすーたーいーこ

シャリーホーエーソコジャイナ 頃は 元禄 ヨオイヤセ
 十と五年 ヨオイヤセ コオラセ 十二月 中端の 十四日
 四十七士の ますらおが (もののふが)
 吉良の屋敷に 乱入して
 山と川との 合言葉 打ちたす 太鼓

御崎西屋台保存会 うた
 赤穂民俗研究会 採集
 (昭和60年10月13日)
 友道令江子 採譜

25. シャリーホーエー うれしゅうエー (屋台音頭—やたいのうた)

シャリーホーエー

うれしゅうエー めでたーの ヨイヤセー

わかまーつーさまーは ドッコイセ ドッコイセ

アーえーだもなーさかーゆ

シャリーホーエー

うれしゅうエー 目出たの ヨイヤセー

若松さまは ドッコイセ ドッコイセ

アー 枝もナー 栄ゆ

御崎西屋台保存会 うた
赤穂民俗研究会 採集
(昭和60年10月13日)
友道令江子 採譜

26. ハー 鶴がナーエー (屋台音頭—やたいのうた)

ハーつーる が ナー エー

ごーもん に ナ ヨイヨイ

すを かけーる な ら アヨーイセソラセ

ホラ かめはーナー おにーわーでソレーサエ

まいをーまーう ソラーヤトーコセーヨイヤナ ホラ

アレワイセ コレワイセー ソラーヨーイトーセ

ハー 鶴がナーエー

御門にナー ヨイヨイ

巢をかけるなら アヨーイセソラセ

ホラ 亀はナー お庭で ソレーサエ

舞を舞う ソラーヤトーコセー ヨイヤナ ホラ

アレワイセ コレワイセー ソラーヨーイトーセ

井筒高男 うた
有年屋台保存会 採集
(昭和61年1月28日)
友道令江子 採譜

27. 目出たナエー (屋台音頭—やたいのうた)

めでたナエー めでたナヨヨヨイ
 みつかさなりてアヨイセソラセ
 ソラつるがナーごもんソーレサエ
 すをかける ソラーヤトーコセーヨイヤナホラ
 アレワイセコレワイセーソラーヨイトーセ

目出たナエー 目出たナーヨ ヨイヨイ

みつ 重なりて アーヨイセソラセ

ソラ 鶴がナー 御門 ソーレサエ

巣をかける ソラーヤトーコセー ヨイヤナ ホラ

アレワイセ コレワイセー ソラー ヨイトーセ

井筒高男 うた
 有年屋台保存会 採集
 (昭和61年1月28日)
 友道令江子 採譜

歳時うた

28. ハリショーエー (曳きとんど音頭)

三味線

ハリ

ショ

エー

たけ に - - - すずめ - は

し な - - - よ く - - - と ま - -

セ

る -

エー と - - -

ハ - リ ショ - - コ - リ ショ

め て - - と ま - - - ら - - - - め

ハ ヨ - イ ヤ - ナ い - ろ - - の み

ハ ヨ - イ ヤ - ナ

ち ソ ラ ヤ ト - コ セ - - - -

ソ ラ ヤ ト - コ セ - - - -

ヨ - - イ ヤ - ナ - ア レ ワ イ セ - -

ヨ - - イ ヤ - ナ - アイ ワ イ セ - -

セ - - ヤ - レ サ テ ナ -

セ - - ヤ - レ サ テ ナ -

- ハリショーエー 竹に雀は ヨイヤセ しなよくとまる
 ハーリショーコーリショ エーとめてとまらぬ ハヨーイヤーナ 色のみち
 ソラヤトーコセー ヨーイヤーナー アレワイセー セーヤーレサテナー
- ハリショギエー 鳥井の地藏さんに ヨイヤセ 振り袖着せて
 ハーリショーコーリショ エー奈良の大仏 ハヨーイヤーナ 婿にとる
 ソラヤトーコセー ヨーイヤーナー アレワイセー セーヤーレサテナー
- ハリショーエー 鳥井の峠は ヨイヤセ 今年も寒い
 ハーリショーコーリショ 地獄の閻魔に ハヨーイヤーナ 言うてくれ
 ソラヤトーコセー ヨーイヤーナー アレワイセー セーヤーレサテナー
- ハリショーエー 丸い卵も ヨイヤセ 切りようで四角
 ハーリショーコーリショ ものも言いよで ハヨーイヤーナ 角がたつ
 ソラヤトーコセー ヨーイヤーナー アレワイセー セーヤーレサテナー
- ハリショーエー 何をくよくよ ヨイヤセ 川端やなぎ
 ハーリショーコーリショ 水の流れを ハヨーイヤーナ 見て暮せ
 ソラヤトーコセー ヨーイヤーナー アレワイセー セーヤーレサテナー
- ハリショーエー お前百まで ヨイヤセ わしゃ九十九まで
 ハーリショーコーリショ とともに白髪の ハヨーイヤーナ はえるまで
 ソラヤトーコセー ヨーイヤーナー アレワイセー セーヤーレサテナー
- ハリショーエー 見たか聞いたか ヨイヤセ 鳥井のとんど
 ハーリショーコーリショ 三味や太鼓で ハヨーイヤーナ はやし曳き
 ソラヤトーコセー ヨーイヤーナー アレワイセー セーヤーレサテナー

鳥井町曳とんど保存会 採集
 (昭和50年1月15日)
 友道令江子 採譜

29. アー盆はうれしや (仏教音頭—盆踊り)

アー ぼんは—う れ— し— や わ か れ た— ひ— と— が

ア ラ セ— ヨ ホ イ ホ イ

は れ て こ の— よ— に コ ラ あ い に く る

アー 盆は うれしや
 別れた人が
 アラセーヨ ホイホイ
 晴れて この世に
 コラ 会いに来る



高見一三 うた
 東有年老人会 採集
 (昭和61年1月28日)
 友道令江子 採譜

30. ペッタン ペッタン (もちつきのうた)

ペッ タン ペッ タン もち つき ペッ タン
 それつけ やれつけ もちつき ペッ タン
 ことしも げん きで もちつき ペッ タン
 きな こと ぼた もち もちつき ペッ タン

ペッタン ペッタン 餅つき ペッタン
 それつけ やれつけ 餅つき ペッタン
 今年も 元気で 餅つき ペッタン
 きな粉とぼた餅 餅つき ペッタン



突々久雄 うた
 上飯屋老人会 採集
 (昭和61年1月24日)
 友道令江子 採譜

31. 春の曙 花なら桜 (赤穂音頭)

はる - の あけ ぼ - の
 は な - な ら - さ く - - ら
 ぶ し - の か が み - - - じゃ
 あ こ - う ぎ - - し - -

1. 春の曙 花なら桜 武士の鑑じゃ 赤穂義士
2. 便り聞きたい 聞かせもしたい 御崎や家島とさし向い
3. 沖の鷗も別れを惜しむ 赤穂御崎の 名残松
4. 赤穂なつかし 住みよい所 昔ながらの 城下町
5. 播磨灘から 朝日が登りゃ 赤穂塩田 塩を炊く
6. 太鼓島とや唐船島は ふめばどんどと 音がする
7. 寺は花岳寺 赤穂の名所 忠義桜の 咲くところ
8. 赤穂まちなか 息継井戸は 昔しのばす 語り草
9. 赤穂大橋 流しぢやならぬ 流しや逢う瀬が ままならぬ
10. 千種川さえ まだ夜は夜中 川原千鳥が 啼いて行く

(昭和11年4月19日赤穂を訪れ作詩)

野口雨情 作詞
 堤 五郎 作曲
 (昭和11年4月19日)

32. 丁度 今から (播州音頭)

ちよ う どー いま からー ーふ つ か まーえ あに で しー
 しゅうにと つれられー て (アナン ジャイ ショエ) よ し わ らー
 よぎく らー ーけんぶ つ ーに きて みりゃー ーこのー
 ひとだか り (ア ドッコイサノ マカセ ドッコイセ)

1. 丁度今から二日前 兄弟子衆にと連れられて アナンジャイショエ
吉原夜桜見物に 来て見りゃこの人だから アドッコイサノマカセドッコイセ
2. あまた花魁あるなかに ひときわ目立つよい女子 アナンジャイショエ
おれも男と生まれたら たとえひと晩ひとときも ああいう女子とともどもに
しみじみ話がしてみたい アドッコイサノマカセドッコイセ
3. 兄弟子衆にと語らえば 身のほど知らぬたわけもの アナンジャイショエ
あれは吉原玉の井の 三浦屋抱えの高尾大夫 アドッコイサノマカセドッコイセ
4. 百万石の大名でも お金を山ほど積んだとて アナンジャイショエ
たかが紺屋の職人で 及ばぬ鯉の滝のぼり アドッコイサノマカセドッコイセ
5. 水にうつりし月影や 及ばぬ恋とは知りつつも アナンジャイショエ
三年三月そのあいだ 命と溜めし五十両 アドッコイサノマカセドッコイセ
6. 一夜の情にかえなんと 高尾の館におとずれて アナンジャイショエ
恥もかまわず身をもわすれ 切ない思い語りなば アドッコイサノマカセドッコイセ
7. 涼しき高尾の目もとはには いつしか涙の露浮ぶ アナンジャイショエ
私も女子じゃ人の子じゃ 情にかわりはあるものか アドッコイサノマカセドッコイセ
8. 義理という字は墨で書く あなたのよな正直は アナンジャイショエ
男を見捨てるこの私 女子名利につきまする アドッコイサノマカセドッコイセ
9. 来年三月年があく その時あなたの妻となる アナンジャイショエ
赤いたすきのまるまげで 水の仕事や針仕事 アドッコイサノマカセドッコイセ
10. 夫婦の固めのしるしにと 前へだしたる二百両 アナンジャイショエ
あんまり話がうますぎる 夢ではないかと久造が アドッコイサノマカセドッコイセ
11. 喜び勇んで朝な夕な 指折り数えて待つうちに アナンジャイショエ
この歳も早過ぎて あくれば三月約束に アドッコイサノマカセドッコイセ
12. まんまるぐりの踊子さんよ 囃子しっかとおたのみじゃ アナンジャイショエ
囃子なくては 下手な音頭がなおとれぬ アドッコイサノマカセドッコイセ

青年団・婦人会 うた
 赤松秀幸 採集
 (昭和40年8月13日)
 赤松秀幸 採譜

記念うた、校歌、応援歌、その他

33. 潮かがやく瀬戸内に (赤穂市歌)



うしお かがやく せとうちに まちありあこう わがきょうど
 うまれてここに としまねく ゆたけきしぜんのおんちょうに
 よくせるいのち— おもうべし
 きおえ ひによに えいえいと
 れんせいのいき— もりあがる ああはりま
 ああはりま われらあこうし

1. 潮^{うしお}かがやく瀬^せ戸^{とう}内に
 市^{まち}あり赤穂^{あかほ}わが郷土
 生まれてここに年^{とし}まねく
 豊^{ゆた}けき自然^{しぜん}の恩^{おん}寵^{ちやう}に
 浴^{よく}せる生命^{せいめい}思^いうべし
 勢^{いき}え日^ひに夜^よに営^{えい}々と
 練^{れん}成^{せい}の意^い気^き盛^もり上^ある
 ああ播^は磨^ま
 われら赤穂市

2. 鮎^{あひ}のさ走る天^{てん}恵^{けい}の
 千^ち種^{しゆ}の流れ手^{なれで}にすくい
 育^{そだ}ちてここに明^{あき}らけく
 産^{さん}業^{ぎやう}都^と市の創^そ造^{ぞう}に
 尽^つくさん使^い命^{めい}に生^いきるべし
 睦^{むつ}めともども藹^{あい}々と
 地^ち方^{はう}文^{ぶん}化^かにさきがけん
 ああ播^は磨^ま
 われら赤穂市

3. 音^{おと}に聞^きこゆる義^ぎ士^し伝^{でん}の
 市^{まち}なり赤穂^{あかほ}わが郷土
 化^か学^{がく}に根^ねざす工^{こう}業^{ぎやう}の
 粹^{すい}を集^あめて調^{ちやう}和^わある
 未^み来^{らい}の都^と市^しを開^{ひら}くため
 励^げめたゆまず烈^{れつ}々と
 次^{つぎ}の世^よ紀^きに応^{こた}うべし
 ああ播^は磨^ま
 われら赤穂市

(赤穂市制発足30周年記念としてつくられた。)

木俣修 作詞
 中田喜直 作曲
 (昭和56年9月1日)

34. 清き流れは (赤穂市連合婦人会会歌)

きよきながれは ちくさがわ
 みなみにひらく はりまなだ
 みどりゆたかな まちをめざし
 おおきくさけよ はなのわに
 めざめよまなべ てを一つなげ ああ
 あこう あこうしれんごう ふじんかい

1. 清き流れは 千種川
 南にひらく 播磨灘
 緑ゆたかな まちめざし
 大きく咲けよ 花の輪に
 めざめよ 学べ 手をつなげ
 ああ 赤穂 赤穂市連合婦人会

2. 義士と塩との 伝統を
 守り高める ふるさとに
 夢と希望の まちめざし
 明るく照らせ ともしびに
 めざめよ 学べ 手をつなげ
 ああ 赤穂 赤穂市連合婦人会

(赤穂市婦人会連合会 創立35周年記念としてつくられた。)

塚本明美 作詞
 木山正規 補作
 赤松秀幸 作曲
 (昭和61年3月8日)

35. 君の恵に (四十七士の歌)

きみの一めぐみにくらぶれば
 ふじのたかねもたかからず
 かみのけよりもかろきみは
 しすともなにかおしからん

◇刃の血

- | | |
|---|--|
| (1)君の恵にくらぶれば
髪 <small>かみ</small> の毛 <small>け</small> よりも軽 <small>かろ</small> き身 <small>み</small> は | 富士 <small>ふじ</small> の高嶺 <small>たかね</small> も高 <small>たか</small> からず |
| (2)怨 <small>うらみ</small> は積 <small>たまり</small> る雪 <small>ゆき</small> の夜 <small>よ</small> に
四十七士の物語 | 死 <small>し</small> すとも何 <small>なに</small> か惜 <small>あは</small> しからん |
| (3)歴史 <small>れきし</small> にのこる忠 <small>ちゆう</small> と義 <small>ぎ</small> の
ならぶ石碑 <small>せきい</small> にむす苔 <small>こけ</small> の | 主君 <small>しゆきん</small> の仇 <small>かたき</small> を復 <small>かへ</small> したる |
| (4)頃 <small>ころ</small> は元禄 <small>げんろく</small> 十四年
大禮 <small>たいらい</small> ありて接待 <small>ていぱい</small> の | 聞 <small>き</small> も勇 <small>ゆう</small> ましいぞ来 <small>き</small> れ |
| (5)浅野 <small>あさの</small> 内匠 <small>うちしやう</small> は思 <small>おも</small> わずも
受 <small>う</small> けて蒙 <small>かぶ</small> る身 <small>み</small> の恥辱 <small>ちじやく</small> | 名 <small>な</small> は高輪 <small>たかづる</small> の泉岳寺 <small>いづみがけでら</small> |
| (6)早 <small>はや</small> や堪忍 <small>かんにん</small> もこれまでと
刃額 <small>やいばぬか</small> に傷 <small>やぶ</small> つけて | 昔 <small>むかし</small> かたらん人々 <small>ひとびと</small> よ |
| (7)吉良 <small>きちら</small> は諸人 <small>しよじん</small> に救 <small>すく</small> われて
のがれぬ罪 <small>つみ</small> は浅野 <small>あさの</small> にて | 勅使幕府 <small>てくし幕ふ</small> に参向 <small>まきむかひ</small> の |
| | 役目 <small>やくめ</small> は伊達 <small>いだて</small> と浅野氏 <small>あさのぢ</small> |
| | 吉良上野 <small>きちらじやの</small> の悔 <small>く</small> りを |
| | 悔 <small>く</small> れどか <small>か</small> いもあらばこそ |
| | 吉良 <small>きちら</small> を目 <small>め</small> がけて切 <small>き</small> りつける |
| | 血 <small>ち</small> は殿中 <small>とのちゆう</small> に流 <small>なが</small> れたり |
| | 其場 <small>そのば</small> は逃 <small>にげ</small> れ得 <small>え</small> たれども |
| | はかなく死 <small>し</small> をぞ賜 <small>たま</small> いける |

◇会議の庭

- | | |
|---|---|
| (1)ここに一人 <small>ひとり</small> の国家老 <small>こくがらう</small>
とどろく胸 <small>むね</small> を押ししづめ | 大石良雄内蔵助 <small>おおいしらのすけ</small> |
| (2)あつまる藩士 <small>はんし</small> 三百余 <small>さんひゃくあま</small>
いささか君 <small>きみ</small> に報 <small>う</small> げんと | 衆 <small>しゆう</small> を集めて議 <small>ぎ</small> しけるが |
| (3)はやる血 <small>ち</small> 氣 <small>き</small> を押しとめて
われ聞 <small>き</small> く君 <small>きみ</small> の恥 <small>ち</small> かしめ | 城 <small>しろ</small> を枕 <small>まくら</small> に討 <small>う</small> ちし |
| (4)されど死 <small>し</small> するはいとやすく
主君 <small>しゆきん</small> の家 <small>いへ</small> は不幸 <small>ふこう</small> にて | 義氣 <small>ぎぎ</small> にはやらぬ者 <small>もの</small> ぞなき |
| (5)君 <small>きみ</small> の御舎弟 <small>ごせだいで</small> 大学の
幕府 <small>まくふ</small> に請 <small>こ</small> うて浅野家 <small>あさのけ</small> の | 良雄 <small>らゆう</small> しづかにいいけらく |
| (6)遠謀深慮 <small>えんぼうしんりょ</small> の大石 <small>おおいし</small> に
ここに浅野家再興 <small>あさのけさいかう</small> の | 受 <small>う</small> くる時 <small>とき</small> には臣死 <small>しんし</small> すと |
| | 生 <small>なま</small> くは難 <small>がた</small> き習 <small>な</small> いなり |
| | ここ一度 <small>いちど</small> 絶 <small>た</small> たれど |
| | 尚世 <small>しやうせい</small> におわすなからずや |
| | 祭 <small>まつり</small> りをつがせ申 <small>まを</small> すべし |
| | たれかは異議 <small>いぎ</small> を挟 <small>はさ</small> むべき |
| | 願 <small>ねが</small> ひを江戸 <small>えど</small> に差 <small>さ</small> し出しぬ |

- | | |
|---|--|
| (7)されど遂 <small>すなは</small> ちには許 <small>ゆる</small> されず
栄華 <small>えいげ</small> をきわめをりしかば | 仇 <small>かたき</small> の吉良 <small>きちら</small> は目の前に |
| (8)一時 <small>いちじ</small> の汚名 <small>おなづな</small> しのぶとも
討 <small>う</small> てやまんと定 <small>さだ</small> めたる | いかで心 <small>こころ</small> のやすむべき |
| | 積 <small>たまり</small> る怨 <small>うらみ</small> の吉良 <small>きちら</small> の首 <small>くび</small> |
| | やたけ心 <small>こころ</small> ぞ是非 <small>しぜい</small> もなき |

◇城の名残

- | | |
|--|--|
| (1)今 <small>いま</small> ぞ名残 <small>なごり</small> と空 <small>あか</small> け渡 <small>わた</small> す
見 <small>み</small> かえる空 <small>そら</small> に面影 <small>おもかげ</small> の | こころ赤穂 <small>あかほ</small> の城 <small>しろ</small> の松 <small>まつ</small> |
| (2)さても良雄 <small>らゆう</small> に連判 <small>れんぱん</small> の
思 <small>おも</small> い思 <small>おも</small> いに身 <small>み</small> をやつし | かすみ残 <small>のこ</small> るも哀 <small>あは</small> れなり |
| (3)江戸 <small>えど</small> に赴 <small>おもむ</small> き人 <small>ひと</small> 知れず
又は京都 <small>きんぎよ</small> に留 <small>とど</small> まりて | 四十七士 <small>しじゅうしちし</small> の同盟 <small>どうめい</small> は |
| | 年 <small>とし</small> ふる里 <small>さと</small> を立ち出 <small>で</small> でて |
| | 仇 <small>かたき</small> うかがう者 <small>もの</small> もあり |
| | 準備 <small>じゆんび</small> いそぐもありとかや |

◇山科村

- | | |
|--|--|
| (1)良雄 <small>らゆう</small> は京 <small>きやう</small> の田舎 <small>でんが</small> なる
はるかに江戸 <small>えど</small> の音 <small>ね</small> づれを | 山科村 <small>やまなかむら</small> に家居 <small>いけ</small> して |
| (2)かたき吉良家 <small>きちらけ</small> の間謀 <small>まがかり</small> は
其 <small>その</small> ふるまいに目 <small>め</small> をつけて | 日々 <small>ひび</small> にうかがいいたりしが |
| (3)良雄 <small>らゆう</small> はことさら新らしき
田地 <small>でんち</small> 買入 <small>かひい</small> れひたすらに | 責任 <small>せきにん</small> 重 <small>おも</small> き大石 <small>おおいし</small> の |
| (4)君家 <small>きみけ</small> の変 <small>かは</small> りを忘 <small>わす</small> れたる
笑 <small>わら</small> わば笑 <small>わら</small> えわだつみの | 報 <small>う</small> げずるけしき見えしかば |
| | 屋敷 <small>やしき</small> をここに建 <small>た</small> て広 <small>ひろ</small> げ |
| | 帰農 <small>きのう</small> せしとぞ見 <small>み</small> せいたる |
| | あの大石 <small>おおいし</small> の腰 <small>こし</small> 拔 <small>ひ</small> くと |
| | 深 <small>ふか</small> き心 <small>こころ</small> のあるものを |

◇天の与へ

- | | |
|---|--|
| (1)しばしば時期 <small>じき</small> の切迫 <small>きつぱく</small> を
今はかたきの用心 <small>よこころ</small> も | うながし来 <small>きた</small> る人もあり |
| (2)心合 <small>こころあ</small> せてようように
期 <small>き</small> は翌月 <small>あしたつき</small> 霜 <small>しも</small> 月の | ややうすらぐと見えしかば |
| (3)きたる十二月 <small>じふにがつ</small> の十四日 <small>じゅうしにち</small>
あることまでも聞き得 <small>き</small> しは | 下り集 <small>あ</small> まる江戸 <small>えど</small> の城 <small>しろ</small> |
| | 松 <small>まつ</small> なお青 <small>あお</small> き頃 <small>ころ</small> なりき |
| | 吉良 <small>きちら</small> のやしきに來客 <small>らいかく</small> の |
| | 天 <small>あま</small> のあたえかありがたや |

◇月まつ夜

- (1) 定めし日にもなりしかば おのおの支度ととのえて
泉岳寺にぞ会しける その数まさに四十七
- (2) 数千の敵も何のその 岩をもとおす桑の弓
やたけにはやる武士の 心やいかに勇むらん
- (3) 降り積む雪の白妙を さやかやかにてらす夜半の月
ねよとの鐘の声ふけて 丑のこくにもなりにけり

◇雪の夜嵐

- (1) 忽ち起る槌の音 門はみじんにくだけたり
討ち入る義士の名乗る声 天に響ておびただし
- (2) やをれ上野とく覚めよ 汝のために死を受けし
浅野内臣の旧臣等 仇を報じに来れるぞ
- (3) 此物音におどろきて 寝巻のままに飛び出づる
吉良の家来は多けれど 我手にあまるものもなし
- (4) 槍ひっさげて座敷より かけ来る一人の大男
まだ十七の右衛門七に 討たれしさまの心地よき

- (5) 大石主税良金と 名のる二八の少年に
ほまれ得させし半太夫 雪は血しおとなりけり
- (6) 槍か剣か長刀か 打ち合うひびき叫ぶ声
さえゆく月の夜嵐に まじるこだまもすさまじや
- (7) ついに入りこむ上野の 閨のふすまの暖かき
さらば遠くは逃げじとて 四方くまなく求むれば
- (8) こぐらき部屋に潜みいる 一人の敵ござんなれ
いで一突と竹林 さし出す槍に突かれしは
顔を疵もまぎれなき 目ざす敵ぞあつまれと
ならず合図の物音は すぐぞ月にさえわたる
- (9) 顔を疵もまぎれなき ならず合図の物音は
ならず合図の物音は 主君の墓にたむけんと
- (10) ふかき恨の仇の首 夜はほのぼのと明にけり
高輪さしてねり行けば 昇る心の朝日かげ
- (11) かかりし胸の雲はれて 鶯は長し千代までも
かがやく空に満つる名の 思えや思え君のため
- (12) あわれ此歌うたう子よ 盟たてたる始より かねぬ男子の節操を

36. 庭の桜は (義士追慕の歌)

に わ の さ く ら は と し ど し に い
ろ か か わ ら ず に お え ど も う
え け ん ひ と は い ま い づ こ こ
ち ふ く か ー ぜ に と い て ま し

1. 庭の桜はとしどしに

色香かわらず匂えども
植えけん人は今いづこ
こちふく風にといてまし

2. 雪と思ひはとけしかど

花と散りにしますらをが
昔のあとをこととわん
赤穂のしろのつきにいざ

37. 春は桜の (少年赤穂義士音頭)

はる - は さくらの はな なら - つぼ - み
 ひと - の まこと - に さい - て - ち - る
 ばんしゅう - あこう - ぎしのまち れき - し に - か お - える
 はな - の ま - ち ソレ エイエイ オ ソレ エイエイ オ

1. 春は桜の 花ならつぼみ
 人のまことに 咲いて散る
 播州赤穂 義士のまち
 歴史にかおる 花のまち
 ソレエイエイオウ ソレエイエイオウ
2. 晴れの役 つとめと耐えて
 この日ひと日の かにんを
 殿の無念の 一太刀に
 はかなくさそう 花の風
 ソレエイエイオウ ソレエイエイオウ
3. 浅野三代 塩たく煙
 今日をかぎりの 刈屋城
 くまなく清めて 明けわたす
 胸の思いは 月ぞ知る
 ソレエイエイオウ ソレエイエイオウ

4. 飢えをしのいで 時待つ苦心
 母を残した 右衛門七が
 父の戒名 しのばせて
 ああ前髪に 雪は散る
 ソレエイエイオウ ソレエイエイオウ
5. 藩士三百 人さまざまに
 固いちかいの 四十七
 父をたすけて 吉良邸に
 向かう主税の 白だすき
 ソレエイエイオウ ソレエイエイオウ
6. 道をつらぬき 身は法に死す
 花の元禄 武士道に
 匂えつぼみの 若ざくら
 主税 右衛門七 二少年
 ソレエイエイオウ ソレエイエイオウ

木山正規 作詞
 赤松秀幸 作曲
 (昭和55年12月14日)

38. 吹く風 (月の赤穂城)

ふ く か ぜ さ む - く じ ょ う - へ き - に

よ る ち る ー つ た ー の す が れ ば ー よ
 つ め た き ー い し ー は か た ら ね ど
 か わ ら ぬ つ き ー の あ こ ー う じ ょ ー う

- | | | |
|---|---|--|
| 1. 吹く風さむく 城壁に
夜散るつたの す枯葉よ
冷き石は 語らねど
かわらぬ月の 赤穂城 | 2. 光るは露か くさむらに
とどめて秘めし その思い
少年主税 去りかねし
月かげ淡き 赤穂城 | 3. 流るる潮よ 年月よ
のぞみはとげて 消えゆきぬ
梢の風に 見返れば
うす月かかる 赤穂城 |
|---|---|--|

木山正規 作詞
 作曲
 (昭和 年 月 日) (不詳)

39. アー時なれや (赤穂鉄道のうた)

アーときなれや はるなれや のやまははなを きかざりて
 あこうてつどう かいつうの めでたききょうを いおうらん

- | | |
|--|---|
| 1. アー 時なれや春なれや 野山は花を着かざりて
赤穂鉄道開通の めでたき今日を祝うらん | 5. 尾崎塩屋は塩をたき 名所古跡もまた多し
東新浜御崎こそ 瀬戸内海の絶景ぞ |
| 2. 有年よりいでて8マイル 南に進む道々に
根木の鉄橋木津の池 その他々難所あり | 6. みたびゆきこう汽車の中 乗りこむ者は義士と塩
世の文明も輸入して 赤穂の色を輝かせ |
| 3. 東に高く尼子山 坂越の浜を左に見
響く汽笛に窓のぞく そのはな先や終点地 | |
| 4. 塩になおえし赤穂の地 義士に名高き赤穂町
そこは日本の名所なり ここは世界の名所なり | |

小国政江 うた
 上飯屋老人会 採集
 (昭和61年1月24日)
 友道令江子 採譜

1. 二月三月 花ざかり
鶯ないた 春の日の
楽しい時も 夢の中
五月六月 実がなれば
2. 枝からふるい 落されて
近所の町へ 持ち出され
何升何合 はかり売り
もとよりすっぱい このからだ
3. 塩につかって からくなり
しそに染まって 赤くなり
七月八月 あつい頃
三日三晩の 土用干し

4. 思えばつらい ことばかり
それも世のため 人のため
しわはよっても 若い気で
小さい君らの 仲間入り
5. 運動会にも ついて行く
ましていくさの その時には
なくては ならない
此の私



西山末子 うた
友道令江子 採集
(昭和61年1月18日)
友道令江子 採譜

42. 二月三月花ざかり (梅干のうた)

にがつさんがつ はなざかり うぐいすないた はるのひの
 たのしいときも ゆめのなか ごーがつろくがつ みがなれば

1. 二月三月 花ざかり
うぐいすないた 春の日の
たのしい時も 夢の中
五月六月 実がなれば
2. 枝からふるい おとされて
近所の町へ 持ち出され
何升何合 はかり売り
もとよりすっぱい このからだ
3. 塩につかって からくなり
しそに染まって 赤くなり
七月八月 あつい頃
三日三晩の 土用干し

4. 思えばつらい 事ばかり
それも世の為 人の為
しわはよっても 若い気で
小さい君らの 仲間入り
5. 運動会にも ついて行く
まして日頃の 食事には
なくてはならない 此の私
健康食には 梅干を

西山幸子 うた
友道令江子 採集
(昭和61年1月18日)
友道令江子 採譜

43. 八幡さんの神主が (青年団応援歌)

はちまんさんの かんぬしが おみくじひいて いうこと にや
 こーんどの しょーぶは ちかちか ちかちか
 かつたほうがあえ かつたほうがあえ へボヌケ へボヌケ オッチョコチョイノチョイ

八幡さんの神主が おみくじひいて 言うこと にや
 今度の勝負は 勝ち勝ち 勝ち勝ち 勝った方がええ 勝った方がええ
 へボヌケ へボヌケ オッチョコチョイノチョイ

井上益雄 うた
 友道令江子 採集
 (昭和61年1月28日)
 友道令江子 採譜

44. 負けるも 勝つも (応援歌)

まけるも かーつも ときの う ん
 れんせん れんしょうの われらに は
 いちどの まけこそ たのしけれ
 たま た ま い ち ど
 か ー ー た と ー て

よ ろ こ ぶ て き ぞ
お ー か し け れ

負けるも勝つも時の運 連戦連勝の我らには
一度の負けこそ楽しけれ たまたま一度
勝ったとて 喜ぶ敵ぞ おかしけれ
フレ- フレ- フレ-

井上益雄 うた
東有年老人会 採集
(昭和61年1月28日)
友道令江子 採譜

45. 見よや見よ (応援歌)

み よ や み よ み よ こ の き よ う そ う
し ょ う り は い づ こ に あ る も の ぞ
も う す に お よ ば ず わ が し ぶ の
き し ょ う ば ん ざ い ば ん ば ん ざ い

見よや見よ見よ この競争
勝利はいづこに あるものぞ
申すに及ばず 我が支部の
期勝万才 万万才

井上益雄 うた
東有年老人会 採集
(昭和61年1月28日)
友道令江子 採譜

46. ああ青春の (応援歌)

あ あ せ い し ゅ ん の ち は も え て
 お お し く む そ う の せ い こ れ る
 き - よ き こ こ ろ の ま す ら お が
 は え あ る き よ - の こ の き よ う そ う
 お た か け ん じ の て な み を ば
 い - ま ぞ あ ら わ せ あ か し せ よ

1. ああ青春の血は燃えて おおしく無双の勢これる
 清き心のますらおが はえある今日のこの競争
 大鷹健児の手並みをば 今ぞあらわせあかしせよ
2. 名は有年村の士をまとめ 身は全郡の覇をしめる
 向こうに立つる敵あらば 投げてすつるにことやある
 朝日に輝やく 我らが首こらべにきらめけり

井上益雄 うた
 東有年老人会 採集
 (昭和61年1月28日)
 友道令江子 採譜

47. サンキュー (応援歌)

Musical score for 'San Kyuu' (Support Song). The score is written on four staves in G major (one sharp) and 2/4 time. The lyrics are written below the notes.

サン キュー サン キュー ベル マ ッ チ
ア イ ラ ブ ユー ユー ラ ブ ユー
か ー ち は わ れ ら の つ ね な る ぞ
あ い て が ま け て も ア イ ド ン ト ノ ー

サンキューサンキュー ベルマッチ

アイラブユー ユーラブユー

勝ち是我らの 常なるぞ

相手が負けても アイ ドント ノー

井上益雄 うた
東有老年人会 採集
(昭和61年1月28日)
友道令江子 採譜

48. わきあがる (東京オリンピック壮行の歌)

The image shows a musical score for the song 'わきあがる' (Tokyo Olympic Anthem). It consists of four staves of music in 4/4 time, with lyrics written below each staff. The lyrics are: わきあがる かんせい は ぎしーの まーち
ふるさとに かたづのむ スポーツの まつり
と うきょう と う きょう オリンピックと う きょう
え ら ばーれー し も の ひ か り あ れ

1. わきあがる 歓声は

義士のまち

ふるさとに かたづのむ

スポーツのまつり

東京 東京 オリンピック東京

選ばれし者 光あれ

2. 秋空に はためくは

日章旗

民族の 意気たかし

若人のまつり

東京 東京 オリンピック東京

たたかわん者 勝利あれ

木山正規 作詞
作曲
(昭和 年 月 日) (不詳)

49. 千種の川の (赤穂幼稚園園歌)

ちくさのかわの みずのよう
きよい ころの よいこです
たのしいの しーい あこうよちえん

1. 千種の川の 水のよう
きよい心の よい子です
たのしい たのしい 赤穂幼稚園
2. 雄鷹の山の 松のよう
つよい体の よい子です
たのしい たのしい 赤穂幼稚園
3. お空にあそぶ 鳥のよう
なかよくしている よい子です
たのしい たのしい 赤穂幼稚園

木山正規 作詞
小川正 作曲
(昭和40年8月 日) (不詳)

50. 城にあおあお (城西幼稚園園歌)

し ろ に あお あお わ か ば が に お う
ふ く ら む ゆ め を く も に の せ た ら ど
こ ま で も そ ら に ひ ろ が る ど
こ ま ー で ー も そ ら に ひ ろ が る

1. 城に あおあお 若葉がにおう

ふくらむ夢を 雲にのせたら
どこまでも 空に広がる
どこまでも 空に広がる

2. 海に きらきら 波が光るよ

みんなのねがい 風にうたえば
うつくしい 明日がひらける
うつくしい 明日がひらける

木山正規 作詞
梶山正人 作曲
(昭和60年12月13日)

51. 黒鉄山に (塩屋幼稚園園歌)

The musical score is written on four staves in G major (one sharp) and 4/4 time. The lyrics are written below each staff.

くろがね やまに うかんでる
みんなの ゆめを のせた くも
あおぐ よいこの ようちえん
たのしい しおや ようちえん

1. 黒鉄山に 浮んでる

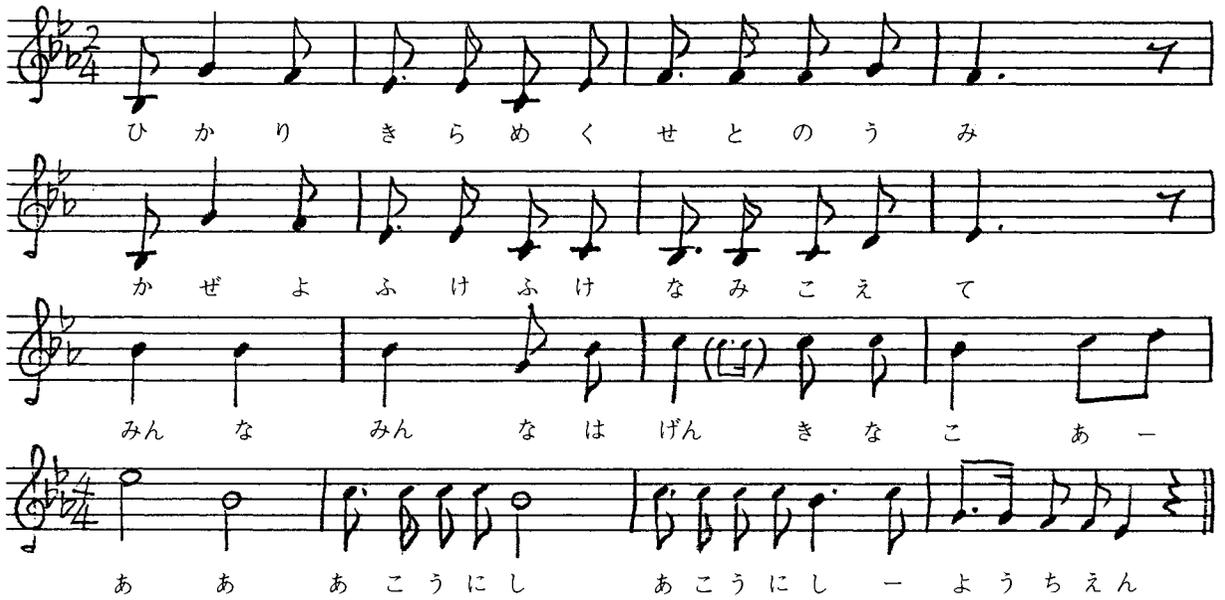
皆んなの夢を 載せた くも
仰ぐ 良い子の 幼稚園
楽しい 塩屋幼稚園

2. 輝く瀬戸の 海広く

皆んなの夢を 運ぶ波
招く 良い子の 幼稚園
楽しい 塩屋幼稚園

木山正規 作詞
木村倅三 作曲
(昭和44年 月 日) (不詳)

52. 光きらめく (赤穂西幼稚園園歌)



ひかりきらめくせとのうみ
 かげよふけふけなみこえて
 みんなみんなはげんきなこあー
 ああ あこうにし あこうにしーようちえん

1. 光きらめく

瀬戸の海

風よ吹け吹け

波こえて

みんな みんなは

元気な子

ああ 赤穂西

赤穂西幼稚園

2. 若葉あかるい

遠見山

花よ咲け咲け

輪になって

みんな みんなは

仲よい子

ああ 赤穂西

赤穂西幼稚園

3. 夢はひろがる

義士のまち

雲よ行け行け

どこまでも

みんな みんなは

伸び行く子

ああ 赤穂西

赤穂西幼稚園

木山正規 作詞
 西原賢 作曲
 (昭和54年12月 日) (不詳)

53. お日様のぼる (尾崎幼稚園園歌)



おひさまのぼるむかいのおやま
げーんきいっぱいしんこきゅう
みんなよいこのみんなよいこのおさきようちえん

1. お日様のぼる 向いのお山
元気一ぱい しんこきゅう
みんなよい子の みんなよい子の 尾崎幼稚園
2. さくらさくらの 宮山のふもと
いつもにこにこ お友達
みんなよい子の みんなよい子の 尾崎幼稚園
3. しお風そよそよ 唐船の松
仲よしこよし 手をつなぐ
みんなよい子の みんなよい子の 尾崎幼稚園



(昭和42年3月13日 園舎改築竣工記念に発表される。)

小林二郎 作詞
大熊誠 作曲
(昭和41年12月14日)

54. 生島の (坂越幼稚園園歌)

い き し ま の み ど り う か べ て

う み か ぜ に き た え て み が く

い き し ま の み ど り う か べ て う み か ぜ に き た え て み が く

あ あ さ こ し さ こ し ょう ち え ん

1. 生島の 緑浮べて
海風に 鍛えて磨く
生島の 緑浮べて
海風に 鍛えて磨く
ああ 坂越 坂越幼稚園

2. 千種川 青く流れて
野の花の 薫りてひらく
千種川 青く流れて
野の花の 薫りてひらく
ああ 坂越 坂越幼稚園



木山正規 作詞
梶山正人 作曲
(昭和60年 月 日) (不詳)

55. 朝は千種の (高雄幼稚園園歌)

The musical score is written on four staves in 2/4 time. The melody is simple and repetitive, suitable for young children. The lyrics are written below the notes.

あ さ は ち く さ の か ぜ が ふ く
み ん な あ つ ま れ よ い こ ら と
こ ば と も す を で て よ ん で い る
あ か る い た か お よ う ち え ん

1. 朝は千種の 風が吹く

皆んな集まれ 良い子らと
小鳩も巣を出て 呼んでいる
明るい 高雄幼稚園

2. いつも笑顔の 友達と

強くやさしく はばたけよ
鳩もどこかで 歌ってる
楽しい 高雄幼稚園



高原照夫 作詞
木村倅三 作曲
(昭和55年3月11日)

56. きよめの庭の (あけぼの幼稚園園歌)

きよめの庭の マリアさま
 まみむねのあいにつつまれ
 てやさしいよいこにそだちま
 すみんななかよしあけぼのようちえん

1. きよめの庭のマリアさま

御旨の愛につつまれて
 やさしいよいこに育ちます
 みんな仲良し
 あけぼの幼稚園

2. めぐみの庭のイエスさま

教えの光に照らされて
 明るく元気に育ちます
 みんなすこやか
 あけぼの幼稚園

岩崎秀子 作詞
 小川正 作曲
 (昭和44年11月16日)

57. 高く聳える (赤穂小学校校歌)

たかくそびえーる おたかのみどり なが
 れはきよーし しのちくさが わふうこうの
 よいせとないかいに のぞむわれらーのふる
 さとにたつ あこ うしょうが ころ ほまれかんばー
 し ほまーれかんばし あこ うしょうが ころ

1. 高く聳える雄鷹の緑
 流れは清し市の千種川
 風光のよい瀬戸内海に
 のぞむわれらのふるさとに立つ
 赤穂小学校誉かんばし
 誉かんばし赤穂小学校
2. 史蹟が多く昔を語る
 今は産業振いて大よ
 栄え賑わい進みてやまず
 ここに全き人となろうよ
 赤穂小学校誉かんばし
 誉かんばし赤穂小学校
3. 明るく強く仲よくはげめ
 その教訓を守りていつも
 師の御教をわが身につけて
 輝く希望の星を仰ごう
 赤穂小学校誉かんばし
 誉かんばし赤穂小学校

三木露風 作詞
 近衛秀磨 作曲
 (昭和30年 月 日) (不詳)

58. 城あとの (城西小学校校歌)

しろあとのこだちのしげりい
 しがきのみずかげきよく
 くすのきにくすのにおい まつの木に まつのにおい
 まもゆるな おきいのちを た
 くましーく とーもにあゆまむ

1. 城あとの ^{こだち}木立のしげり

石垣の水かけ きよく

くすのきに くすの匂い

まつの木に まつの匂い

いま^も萌ゆる 直きいのちを

たくましく ともにあゆまむ

2. 波ひかる 瀬戸のあさあけ

はるかより 潮かぜわたる

名もたかき 義士のいさお

伝えつつ ひらく未来

いま^{きお}勢う 若きいのちを

知恵みがき ともにすすまむ

木山正規 作詞
 近藤幹雄 作曲
 (昭和60年2月 日) (不詳)

59. 見はるかす (塩屋小学校校歌)

みはるかす せとのうみ みどりなみ いときよく
 よいこのころも いときよく すなおなみちを あゆもうよ そ
 のまなびやここここし おやこ

1. 見はるかす 瀬戸の海

みどりなみ
 碧波 いと清く
このころ
 よい子の心情も いと清く
 すなおな道を 歩もうよ
まなびや
 その学舎こそ ここ塩屋校

3. 黒鉄の 大岩根

そそり立ち いと強く
 よい子の身体も いと強く
 寒い北風 耐えようよ
 その学舎こそ ここ塩屋校

2. 金色の 朝日かげ

窓にみち いと明く
きどり
 よい子の智慧も いと明く
またましらたま
 真珠白珠 磨こうよ
 その学舎こそ ここ塩屋校

4. 広らかな 塩の浜

立つけぶり いと高く
のぞみ
 よい子の希望も いと高く
 青い大空 仰ごうよ
 その学舎こそ ここ塩屋校

平尾孤城 作詞
 大熊誠 作曲
 (昭和33年9月日) (不詳)



60. みどりの山に (赤穂西小学校校歌)

みどりのやまに かこまれて かぜさえなごむ このあたり
 きょうも みなぎる ひをあびて わかぎのよう に すこやかに
 わたしたち が のびそだつ あこうにしー しょうがっこう
 わたしたち が のびそだつ にしー しょうがっこう

1. みどりの山に 囲まれて
 風さえ和む このあたり
 きょうも みなぎる日を浴びて
 若木のように 健やかに
 わたしたちが 伸び育つ
 赤穂西小学校
 わたしたちが 伸び育つ
 西小学校

2. 千種の川も あの灘も
 大海原に 続くもの
 ああ その行く手に その果てに
 はらかな未来 望んでは
 はげまし合い 学び合う
 赤穂西小学校
 はげまし合い 学び合う
 西小学校

3. 義を重んじた人々の
 歴史を語る土地 ここに
 さあ その三つ輪の旗のもと
 友情固く 進むこと
 ちかい合おう 誇らしく
 赤穂西小学校
 ちかい合おう 誇らしく
 西小学校

小林純一 作詞
 中田喜直 作曲
 (昭和54年2月 日) (不詳)

61. 千種の流れ (尾崎小学校校歌一旧一)

ちくさのながーれみずきよくばんーよう
 のうみなみしずかきよしうるわしこのしぜ
 んこれーぞわれらのりそうきょう
 2. しんかをあいするめいくんのあつきころはしろきしお
 3. ちゅうとこうとはくにのみちしょうじきしんせつきんべんは
 せんこにくーちぬちゅうしんのあかきころはわがちしお
 こころにひーめたみつどもえうんめいひーらくかぎなるぞ
 4. ゆくてのやまーはけわしくもさおさすう
 みーはあらくともいざやはげまんもろとも
 にちからのかぎーりいそしまん

1. 千種の流れ 水清く
 播陽の海 波静か
 清し麗し 此の自然
 これぞ我等の 理想境

2. 臣下を愛する 名君の
 厚き心は 白い塩
 千古に朽ちぬ 忠臣の
 赤き心は 我が血潮

3. 忠と孝とは 国の道
 正直 親切 勤勉は
 心に秘めた 三つ巴
 運命開く 鍵なるぞ

4. 行手の山は けわしくも
 棹さす海は 荒くとも
 いざや励まん 諸共
 力の限り いそしまん

古澤謙治 作詞
 尾上民蔵 作曲
 (昭和3年 月 日) (不詳)

62. 千種の流れ (尾崎小学校校歌—新一)

ち く さ の な が ー れ き よ ら か に ち
 ど り が は ま ー の あ さ ぼ ら け せ
 と の し ま や ま ほ の ぼ の と し
 お ー の は な さ く り そ う きょ う

1. 千種の流れ 清らかに
 千鳥が浜の 朝ぼらけ
 瀬戸の島山 ほのぼのと
 しおの花咲く 理想郷

2. 明朗 親和 勤勉に
 学びのには ひろびろと
 いそむひとみ かがやかに
 希望はおどる 健康児

3. 宮山が丘の 若ざくら
 花と文化の 咲きほこる
 平和日本 建設の
 つとめはたさん もろともに

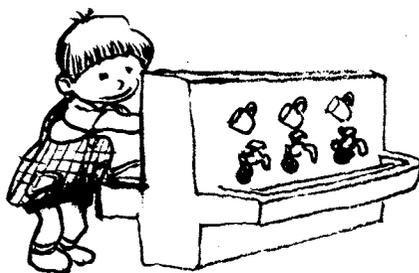
(昭和26年 歌詞が当時の世相にマッチしないため、その当時の
 校長 山本光雄 によって歌詞が改訂された。)

山本光雄 作詞
 尾上民蔵 作曲
 (昭和26年 月 日) (不詳)

63. 空は高いよ (御崎小学校校歌)

そらはたかいよ あおいそら
 しらほもみえる わがまどに
 ちえをみがいて まなぶのだ きょうもあかーくたすけあい
 きよいよ いこに そだつのだ あー
 あみさき みさき しょうが こう

1. 空は高いよ 青い空
 白帆も見える わが窓に
 知恵を磨いて 学ぶのだ
 きょうも明るく 助けあい
 清いよい子に 育つのだ
 ああ 御崎 御崎小学校
2. 海は広いよ 青い海
 潮風かおる わが庭に
 からだを鍛え 伸びるのだ
 きょうも仲よく 手をつなぎ
 強いよい子に 育つのだ
 ああ 御崎 御崎小学校
3. 白く高いよ わが校舎
 歴史ゆかしい 学び舎に
 ゆたかなところ つくるのだ
 きょうも楽しく 学びあい
 輝く人に 育つのだ
 ああ 御崎 御崎小学校



松井利男 作詞
 秋月直胤 作曲
 (昭和39年3月12日)

64. 朝雲高し (坂越小学校校歌)

あ さ ぐ も た - か - し ほ う じ ゅ さ ん
 ゆ う な - み - き よ し さ こ し う ら
 こ の よ - き - さ と に う ま れ き - て
 わ れ ら は ま - な - ぶ い ま こ こ に

— 旧 —

1. 朝雲高し 宝珠山
夕波清し 坂越浦
このよき里に 生まれきて
我等は学ぶ 今ここに
2. 自治と勤勉 誠実の
三つの教えを 守りつつ
御国のために 身のために
我等は学ぶ ひたすらに

— 新 —

1. 朝雲高し 宝珠山
夕波清し 瀬戸の海
このよき町に 育ちきて
我等は学ぶ 坂越校
2. 直くゆかしく すこやかに
意志も強く 手をくみて
希望に胸を おどらせつ
我等は励む 坂越校

(戦後、歌詞がマッチしないため改訂された。)

義原敬爽 作詞
南能衛 作曲
(大正8年 月 日) (不詳)

65. 空が空が (高雄小学校校歌)

そらがそらが あかるいそらが
 われらをつつむ やわらかく えだから
 えだへ とびこえて
 はばたくとりは いまそだつ
 さえずるとりは 胸をはる

1. 空が 空が あかるい空が
 われらをつつむ やわらかく
 枝から枝へ とび交うて
 はばたく鳥は いまそだつ
 さえずる鳥は 胸をはる

2. 川が 川が せせらぐ川が
 こころのなかへ ながれこむ
 あつまる石は よりそうて
 みがいて冴える 知恵のつや
 めざめるまなこ 雲をみる

3. 窓を 窓を 大きな窓を
 たがいの顔の ほほえみで
 うずめるように むつみあう
 ほどけぬように 手をつなぐ
 かたまる誓い 高雄校

川中郁 作詞
 川澄健一 作曲
 (昭和34年1月 日) (不詳)

66. 大鷹山の (有年小学校校歌)

おーたか やまーの そらはれて
 つばさもかるーく まいうたーう
 こまどりのよう ほがらかに みんななかよくまなぶのだおう
 ー われらのうねしょうがつこう ねしょうがつこう

1. 大鷹山の 空晴れて

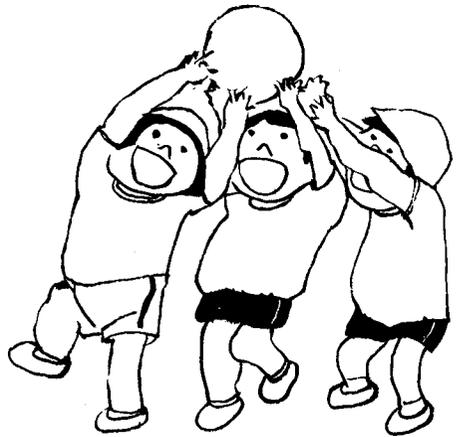
^{つばと}
 翼もかるく 舞いうたう
 こまどりのよう ^{ほが}
 朗らかに
 みんな仲よく 学ぶのだ
 おう われらの 有年小学校

2. 千種川瀬の 真清水に

せびれを立てて さかのぼる
 若鮎のよう はつらつと
 みんな元気に 進むのだ
 おう われらの 有年小学校

3. 朝日かがやく 傍示が丘

みどりは匂い 枝しげる
^{ときわぎ}
 常盤木のよう すこやかに
 みんな揃って 伸びるのだ
 おう われらの 有年小学校



池本一一 作詞
 大熊誠 作曲
 (昭和34年2月21日)

67. 蟻無山の (原小学校校歌)

ありなしやまの - まつのみどり
り - ひかりさ - やかに -
このまどうたう - てんにり
そうをゆびさして あさあさつどう
あさあさまなぶ われらわれ -
ら は ら しょうがっこう

1. 蟻無山の 松の緑

光さやかにこの窓うたう
天に理想を 指さして
あさ あさ 集う
あさ あさ 学ぶ
われら われら 原小学校

2. 牟礼野ヶ原の 土の息吹き

陽炎 ^{かげろふ} 燃えたち この道ひらく
胸に希望を 抱きしめて
のび のび 育つ
のび のび 励む
われら われら 原小学校

(昭和33年2月15日に発表される)

松岡秀夫 作詞
青山政雄 作曲
(昭和32年7月18日)
—新校舎竣工式の日—

68. 坂越おもえば (坂越小唄)

さこしおもえば なつかしーこい し なみーもちどりの
 そめもよう しらほなーがー るーるせと
 の うーみ ホンニソウダヨ ソジャナイカ

1. 坂越おもえば
 なつかし恋し
 波も千鳥の
 そめ模様
 白帆流るる
 瀬戸の海
 へくり返し

ホンニソウダヨ
 ソジャナイカ

2. 名さえゆかしい
 船岡園に
 残るいさおも
 高德公
 千代に八重咲く
 山さくら

3. 昔ながらの
 あの深みどり
 そっとうつした
 水かがみ
 島にやあら磯
 波のはな

4. 霧としぐれに
 宝珠のもみじ
 そめてうれしい
 あやにしき
 わたしや紅さす
 ひまもない

5. こおる夜空を
 流れた星は
 遠い家島の
 島あかり
 ふけて静かな
 もやい船

6. 峠高取はるばる
 越えりや
 高野田端
 霧のむら
 五穀豊穰の
 稲穂風

7. 笛や太鼓で
 どんどこはやし
 月も浮かれる
 盆おどり
 夜いちたのしや
 灯がまねく

8. 出船入船
 風みるころは
 乙女心も
 ゆりの花
 咲くもしぼむも
 君ゆえに

9. 二つ巴は
 大石さまを
 しのぶえにしの
 義士まつり
 松に千年の
 風かおる

不明 うた
 友道令江子 採集
 (昭和51年9月8日)
 友道令江子 採譜

69. 高雄よいとこ (高雄音頭)

たかおよいとこみど
りのやまにあ
あさきたかよことりがないて
きょうのとばりの
ひらくさと

1. 高雄よいとこ 緑の山に
朝が来たかよ 小鳥が鳴いて
今日の帳の開く里
2. 高雄よいとこ 春風そよぎ(吹いて)
広い田んぼも 一青畳
麦生の涯に 白い壁
3. 高雄よいとこ 千種の川の
清き(歌う)せせらぎ 若あゆ踊り
淵は柳の 水鏡
4. 高雄よいとこ 山裾模様
野良も錦よ 黄金の波よ
とんびが輪をかく 青い空
5. 高雄よいとこ 五つの寺の
夕来たとて 衝く鐘の音に
夢路楽しく 辿る道(里)

(大勢の人が気軽に歌って、踊って頂けるレクリエーションは望ましいものです。高雄音頭はこんな心づもりのあらわれで、純農村の故里を朝、昼、晩、それから四季の定型詩にまとめられたものです。)

藪内竹雄 作詞
三木五一 作曲
(昭和37年 月 日) (不詳)

70. みなもと遠き (赤穂中学校校歌)

み な も と と お き ち く さ が わ
 つ き せ ぬ な が ー れ た た ー え つ つ
 ひ び あ た ら し き こ う め い の ち え を み が か む わ れ ら み な あ ー
 あ ー あ け き に い く る あ こ う ち ゅ う が つ こ う

1. みなもと遠き千種川

つきせぬ流れたたえつつ
 日々新しき公明の
 知恵を磨かむわれらみな
 ああ明けきに生くる
 赤穂中学校

2. 雄鷹愛宕の松の風

さやけき緑仰ぎつつ
 常磐の操友情の
 永遠を誓わむわれらみな
 ああ^{きよ}浄きに生くる
 赤穂中学校

3. 歴史はゆかし赤穂城

直き心をしのびつつ
 とともに栄ゆる正大の
 道ふみ行かむわれらみな
 ああ直きに生くる
 赤穂中学校



松井利男 作詞
 秋月直胤 作曲
 (昭和39年3月11日)

71. ゆく水清き (赤穂蓼洲中学校生徒歌一旧一)



ゆくみずきよ一きちくさのかわべあか
 き たてさくうるわしきちにうまれ
 しわれらぞのぞみかがやくあか
 つきにたてまことをもとめ

1. ゆく水清き 千種の川べ

赤き蓼ただ咲く 美しき地うるわに
 生まれしわれらぞ 希望のぞみ輝く
 暁に立て まことを求め

2. 古きを毀ち 同胞をあげ

新しき国 うち立つる日に
 励まんわれらぞ 力みなぎる
 手を取りて立て 平和を求め

3. 大空高く 海原広し

胸いだに抱ける 前途の夢に
 伸びゆくわれらぞ 若さ溢るる
 学び舎やに立て 理想を求め

木山正規 作詞
 作曲
 (昭和 年 月 日) (不詳)

72. 庭のさくら (赤穂中学校生徒歌—新一)

に—わのさくら ほころびそめて わがまなびやに あたらしき
 ともをむかふる はるのうた か おるし らく—も
 あ おい そ ら あ—せい しゅ—んの せいしゅんの
 よろこびあふれ きぼうはおどる

1. 庭のさくら ほころびそめて

わが学びやに 新しき
 友を迎ふる 春の歌
 薫る白雲 青い空
 ああ青春の 青春の
 よろこびあふれ 希望はおどる

2. 恵みゆたけき 千種の流れ

極まるあたり 生気みち
 文化の潮 輝けり
 きらめく太陽 広き海
 ああ若人の 若人の
 血潮高なり 力はたぎつ

3. 秋風冴ゆる 古城のほどり

松のみどりは 変らねど
 栄古の夢は いくたびか
 高き石垣 深き堀
 ああとこしえの とこしえの
 心偲びて 使命に生きむ

4. 海のあなたに 紫にほふ

小豆島山 嶺の雪
 日ごとに見えて 春近し
 萌ゆる若草 清き風
 ああ友情の 友情の
 理想輝く われらが母校

松井利男 作詞
 秋月直胤 作曲
 (昭和39年3月11日)

73. 燃えあがる (赤穂中学校野球部応援歌)

The musical score is written on four staves in 4/4 time. The melody is in G major (one sharp). The lyrics are written below the notes.

も え あ が ー る ほ の お の ご と ー く さ か
ん な り ふ く つ の と お ー し
ぼ こ う の え い よ に な い た ー つ わ れ
ら あ か ち ゅ う や き ゅ う ぶ ナ イ ー ン

1. 燃えあがる 炎のごとく
さかかなり 不屈の闘志
母校の栄誉 担い立つ
われら 赤中 野球部ナイン

2. 湧きいづる ^{いずみ}清水のごとく
清らけき 心を結び
正しく強く 闘わん
われら 赤中 野球部ナイン

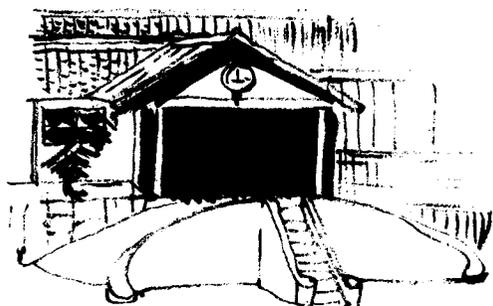
木山正規 作詞
作曲
(昭和 年 月 日) (不詳)

74. 春は春は (赤穂西中学校校歌)

(3.4 3.4)

はーるは はーるーは いららやーまのわかみどり
 あさひににーおい すがすがし そのせーいーしんの
 ころろーもーて あすーのーきぼーうに
 すすーまばや おお わーれーら
 あこうにし ちゅうがくの がくと

1. 春は春は いらら山の若緑
 朝日におい すがすがし
 その清新の心もて 明日の希望に進まばや
 おお 我ら 赤穂西中学の学徒
2. 夏は夏は 瀬戸の内海の幾千尋
 たゆとう濤も 限りなし
 その深淵の知識もて 明日の科学を伸ばさばや
 おお 我ら 赤穂西中学の学徒
3. 秋は秋は いにしえひら とよさちだ 古拓く豊幸田
 いまに稔りて かいな 黄金なす
 その勤勉の腕もて 明日の社会を築かばや
 おお 我ら 赤穂西中学の学徒
4. 冬は冬は 黒鉄おろし荒ぶ風
 空に高鳴り 雲を捲く
 その強固なる意志もて 明日の大成勝ち得ばや
 おお 我ら 赤穂西中学の学徒



平尾孤城 作詞
 橋本喬雄 作曲
 (昭和34年2月15日)

75. 晴れゆく空の (赤穂西中学校生徒会歌)



はれゆくそらのあさかげさやかいら
 らの丘の若樹に映えてああ
 わきあがる生命のさけびきけ
 まなびやのじちのはたかぜにし
 ちゅうにしちゅうにしちゅうせいとかい

1. 晴れゆく空の 朝光さやか

いららの丘の 若樹に映えて
 ああ 湧きあがる 生命のさけび
 聞け学舎の 自治の旗風
 西中 西中 西中生徒会

2. 茜の海の 夕波静か

瀬戸の潮路に 集える友よ
 ああ さし招く 理想の行手
 みよ学舎の 自治の旗影
 西中 西中 西中生徒会

木山正規 作詞
 作曲
 (昭和 年 月 日) (不詳)

76. しずかに潮は (赤穂東中学校校歌)

しずかに しおーは み ちーわ たり
 ひかりに かすーむ は り ま な だ は う
 み のふと ころ あ た た か く こ
 こ に た ち た り ひ が し こ う ひ そ よ
 げ わ か き よ わ が こ う ぼ こ う ひ が し

1. しずかに潮は 満ちわたり
 光りにかすむ 播磨灘
 海のふところ あたたかく
 ここに^{たち}立ち 東校
 そよげ若木よ 我が校母校東

2. 朝に仰ぐ 向い山
 夕べにしたう 東浜
 父と母との いつくしみ
 ここに育たん 東校
 伸びよ若木よ 我が校母校東

3. ^{もろて} 双手ににぎる 地の塩を
 ひろく世のため 人のため
 地球のはたて 雲の際
 ここに願たん 東校
 覚めよ若木よ 我が校母校東

竹中郁 作詞
 大沢寿人 作曲
 (昭和24年10月14日)

77. 坂越高雄の (坂越中学校校歌)

さ こ した か おー の し あ わ せ を は ぐ
く み き よ き ち ぐ ー さ が わ
さ や か に ひ び ー く わ が ぼ こ う ゆ た
け き め ぐ み た た ー ー え つ つ
よ ろ こ び い く る ゆ う じ ょ う の ち か い に い き む わ れ ら み な あ ー
あ ー さ こ ー し さ こ し ち ゅ う が つ こ う

友情 友愛

- 坂越高雄の 幸わせを
 育くみ清き 千種川
 さやかに響く 我母校
 豊けき恵み 称えつつ
 喜び生くる 友情の
 誓いに生きむ われらみな
 ああ 坂越 坂越中学校

希望 理想

- 文化の潮^{うしほ} 輝ける
 波にみどりの 生島の
 生気ぞ通ふ わが母校
 久遠の光 仰ぎつつ
 新しき世の 大いなる
 希望に生きむ われらみな
 ああ 坂越 坂越中学校

責任 使命

- 尼子城趾の 白き雲
 船岡園の 花の色
 はるかにかほる わが母校
 栄枯の真実^{まこと} 求めつつ
 今をきびしく 明日つくる
 使命に生きむ われらみな
 ああ 坂越 坂越中学校

松井利男 作詞
 秋月直胤 作曲
 (昭和40年3月22日)

78. 水よ時よ土よ (坂越中学校生徒歌)

み ず よ と き よ つ ち よ う つ く し き す べ
 て の し ん え ん わ れ ら の き ょ う を い ろ ど る ひ の ひ か
 り こ こ ろ に は は ば た く つ ば さ に う く
 あ あ が く ゆ う と み は る か す た か と り と う げ に さ え わ た る ば ら い ろ の
 あ し た

1. 水よ時よ土よ 美しきすべての深淵

われらの今日を彩る 陽の光
 心には はばたく翼にうく
 ああ学友と みはるかす
 鷹取峠に沓え渡る 薔薇色の旦

2. 空よ 海よ 草よ

永遠のきびしさのまえに
 つよく明日を育てる 大気の香
 純潔なわれらの胸にふかく
 ああ校窓に 運びくる
 生島樹林 さわやかな紺碧の呼吸

3. 師よ 友よ その手

見あぐれば コバルトの空
 天 真 空 勾 踐
 霞には消えゆく 高き歌よ
 ああ心には かげゆらぐ
 伸びゆく樹々 飛び来たれ栄かけよ

杉本衣子 作詞
 有馬礼子 作曲

(昭和31年1月17日)

79. 空に結ぶ我等 (坂越中学校応援歌)

そらにむすぶ われらわかきせん の こ え わき
 あがれわき あがれきょう おうごんのこのしゅーんかんき
 たいにこたえよ せいれつなちしお すうせんのひ
 とみーを あび るこう えいのそのかいな よ さこし さこ
 し さ こ し ちゅう がっ こう

1. 空に結ぶ

我等若き 千の声

湧きあがれ 湧きあがれ

今日黄金の この瞬間

期待に応えよ 凄烈な血潮

数千の瞳を俗びる

光栄の その腕よ

坂越 坂越 坂越中学校

2. 地には揺れる

我等の振る 千の旗

ひびき行け ひびき行け

今日戦いの 吹雪の底に

浮き出よ 真白きユニホーム

君の友情の五色の綱は

ここに輝き みゆる

坂越 坂越 坂越中学校

3. 高雄の嶺

光る朝 曇る日も

校舎に つづける

明るき車輪 流れるライン

希望のこだまは 今日今はずむ

鍛えみがき高める

我等燃ゆる 数百の胸

坂越 坂越 坂越中学校

杉本衣子 作詞
 有馬礼子 作曲
 (昭和31年1月11日)

80. 緑に映ゆる (有年中学校校歌)

み どり に は ゆる よ も の み ね そ よ か ぜー
 か お る ひ ろ の は ら ゆ う あ い き よ き まー
 な び や に せ い きー あ ふ れ る わー こー う ど
 が み よ は つ ら つ と の び す す む わ
 が う ね ち ゅ う が く いー ざ あ お げ

1. 緑に映ゆる よもの峰

そよ風かおる広野原
 友愛きよき学舎に
 生氣あふれる若人が
 みよ潑刺と伸び進む
 わが有年中学いざ仰げ

2. 千種の流れ 水清く

文化の光さすところ
 知徳を磨き身をきたえ
 自由の鐘もほがらかに
 いま若鮎と育ちゆく
 わが有年中学いざ励め

3. 大鷹山に 雲晴れて

豊けくみのるこの里に
 共に手をとり歩を揃え
 ひたすら理想求めつつ
 いざ学業にいそしまん
 わが有年中学いざ誇れ

池本一一 作詞
 澤巖夫 作曲
 (昭和26年11月6日)

81. 風さわやかに (兵庫県立赤穂高等学校校歌)

か ぜ さ わ や か に じょうりよくの
 こ ず え を な ら す お た か だ い
 く だ く る な み の お と さ え て
 み さ き に た か き ひ の ひ か り
 あ お げ あ こ う の じょう - と う - に
 の ぼ る せ い ぎ の か が - や き を

1. 風さわやかに常緑の
 梢をならす雄鷹台
 くだくる波の音さえて
 御崎に高き日の光
 上げ赤穂の城頭に
 のぼる正義のかがやきを
2. 水けがれなき真心を
 うつして清き千種川
 まさごの道のはて遠く
 白き光ぞかがやける
 歌へ赤穂の城壁に
 ひびく潮のどよめきを



竹友藻風 作詞
 信時潔 作曲
 (昭和29年2月1日)

82. 色さびし (兵庫県立赤穂高校四十周年記念讃歌)

いろさびし じょうー しの まつー に ふ
 き とお る とお きし おか ぜ
 す ぎ ゆ き は きの う の ご と く ほ
 り の み ず あお く た た え ぬ
 み さ お か た き ま こ と の み ち を ま な ば ん と お
 き し い し ず え う つ り つ つ は や
 しじゅうー よ ね ん あ あ わ れ ら こ
 こ に つ ど い て け ん が く の り そ うー を お も
 う ほ ま れ あ れ あ こう こうー こう

1. 色さびし城趾の松に

吹きとおる遠き潮風
すぎゆきは 昨日のごとく
濠の水蒼くたたえぬ
操かたき誠の道を
学ばんと置きし礎
うつりつつ はや四十年
ああ われら ここに集ひて
建学の理想を憶ふ
誉あれ 赤穂高校

2. みはるかす瀬戸の海辺に

夕沈み朝は湧く雲
展けゆく明日のごとく
島山の影もさやけし
若者の生命燃して
伝統のなかに培ひ
志 高く保たむ
ああ われら ここに集ひて
学舎の未来を歌ふ
栄あれ 赤穂高校

兵庫県立赤穂高等学校創立40周年記念
讃歌としてつくられた。

富田 素弘 作詞
浜本由美子 作曲
(昭和42年 月 日) (不詳)

83. 丹きところは (兵庫県立赤穂中学校校歌)

あ か き こ ころ は お い し の し ぜ ん に に ほ ふ さ く ら ば な
 ぎ ほ う ー せん こ に た ぐ ひ な き ぎ し の ー い せ き を し た い つ つ
 わ れ ら けん じ は ま な ぶ な り
 ち ゅ う ー と こ う ー と の み ち す ぐ に

1. 丹きところは大石の 祠前ににほふさくら花
 義芳千古にたぐひなき 義士の偉績を慕ひつつ
 われら健児は学ぶなり 忠と孝との道すぐに
2. 清きところは水精の 瓶に湛ふる秋の水
 尊きをしへ残したる 国土の高風仰ぎつつ
 われら健児は励むなり 文を左に武を右に
3. 堅きところは何のその 岩をも通す桑の弓
 自粥息まざる大丈夫の 剛毅の大旗かざしつつ
 校風振起の理想追ひ いざや進まん諸共に

昭和2年から昭和20年までうたわれた。

小西重直 作歌
 春日嘉藤泊 作曲
 (昭和2年 月 日)

84. 高き希望に (兵庫県立赤穂高等女学校校歌)

た か き の ぞ み に つ ど う ー ど ち
 み さ き の う ー ら ー の ー し ー ず ー な み に
 か ー ー げ ま ー ろ く さ す も ち づ き の ー
 あ け き に こ こ ろ き ー そ ー ひ な む
 あ け き に こ ー こ ー ろ ー き ー そ ー い な む

1. 高き^{のぞみ}希望に集ふどち 御崎の浦の静波に
 影^{まろ}円くさす望月の 明けきに心競ひなむ
 明けきに心競ひなむ
2. 誠の道を一筋に わきて流るる千種川
 千草に結ぶ玉露の 清きにこころ類へなむ
 清きにこころ類へなむ
3. 理想の光仰げいぎ ここぞ名に負ふ赤穂城
 薫りゆかしき義士の花 直き心に咲きいでむ
 直き心に咲きいでむ

昭和42年 県立赤穂高等学校40周年記念式典に際し
 寺田祐子先生に原曲の指導を受け、二部合唱及び伴
 奏譜を作製したものである。

赤穂高等女学校 作歌
 同 校 作曲
 赤松秀幸 編曲

85. 赤穂城頭 (兵庫県立赤穂中学校剣道部の歌)

あこうじょうとう つきさえて ちくさのかわの みずきよし
 けんしのむねは ちにもえて やいばにはゆる かげきよし
 みずさえかるる なつのひに たきはすあせぞ こちよき
 まふゆのどうじょう こおりなば わがちしおもて あたためん
 こじょーにつどう わこーどよ わがぶはなれり いざたたん
 たーかきりそうの はたかせに ぶしどうのはな さかせつつ

赤穂城頭 月冴えて
 千種の川の 水清し
 剣士の胸は 血に燃えて
 刃にはゆる 影清し
 水さえかるる 夏の日に
 たきなす汗ぞ こちよき
 真冬の道場 こおりなば
 我血潮もて あたためん
 古城に集う 若人よ
 我部はなれり いざ立たん
 高き理想の 旗風に
 武士道の華 咲かせつつ

三谷百々 うた
 上飯屋老人会 採集
 (昭和61年1月18日)
 友道令江子 採譜

86. 瀬戸の島じま (兵庫県立赤穂養護学校校歌)

せ と の し ま ー じ ー ま あ さ あ け て

く ろ が ね ー や ま に さ ー す ー ひ か り

き よ き こ ころ を ひ と す じ に ー あ ゆ み つ づ げ ん わ が と も よ あ

あ ー ー あ こ う あ こ う よ う ご が っ こ う

1. 瀬戸の島じま 朝あけて

くろがね山に さす光
清き心を ひとすじに
歩みつづけん わが友よ
ああ 赤穂 赤穂養護学校

2. 義士のほまれの 花かおり

昔をしのぶ 赤穂城
強きいのちを ひたすらに
きたえつづけん わが友よ
ああ 赤穂 赤穂養護学校

木山正規 作詞
鈴木史朗 作曲
(昭和52年11月8日)

87. 夢を求めて (兵庫県立赤穂養護学校行進歌)

The musical score is written on four staves in 4/4 time. The melody is simple and march-like. The lyrics are written below the notes.

ゆ め を も と め て い く た び は
と お く は る か な み ち だ け ど
き ぼ う を む ね に た ゆ み な く あ し た に ち か う こ の ゆ う き あ
こ う あ こ う よ う ご が っ こ う

1. 夢を求めていく旅は
遠く遥かな路だけど
希望を胸にたゆみなく
明日に誓うこの勇氣
赤穂 赤穂養護学校

2. 光求めて生きていく
僕らはみんな友達だ
雨降るときも風の日も
くじけずみんな頑張ろう
赤穂 赤穂養護学校

3. 虹を求めていつの日か
大きな空へ飛び立とう
つばさ広げて大地けり
海原こえて山こえて
赤穂 赤穂養護学校

清水均 作詞
作曲
(昭和53年5月1日)

1. 塩屋小学校の歌

吾等の通える学校は 明治六年三月に
 開いた物が始まりで 寺の一部を借りて居た
 程へて明治の十五年 阿弥陀堂の境内で
 仮の校舎を建て加へ 此処に移りて六ヶ年
 厚き心の人々が 東大道の地を選び
 村の山木でケンロウに 此処に建てた此の校舎
 庭に樹木を植え込んで 明治二十一年に
 学びの窓の開け初め 今は村 追ふて居る
 此処に生い立つ共人よ 君の御教へ克く守れ
 学びの道にいそしみて 克く国為めにならましよう
 身を健やかにする事も 君に報ゆるためなれば
 稽古稽古のあい間には 楽しい遊戯も致します

前賀卯太郎 作詞
 不 明 作曲
 (明治36年頃)

2. 塩屋村の歌

吾等の住める里の名は 赤穂郡の塩屋村
 東隣りは赤穂町 西は備前の国境
 南は海に北は山 字名の数は六つにて
 塩屋 新田 木生谷 大津 折方 鷓和なり
 家数は千百七十余 七千余りの人がいる
 其の人達のなす業は 農と商との其の外に
 製塩業が盛大で その産額を調らふれば
 年年十と四万石 村の主なる収益は
 製塩業が余澤ぞと 思ふて浜辺を眺むれば
 釜屋 釜屋の煙突に 昇る煙の賑わしき

前賀卯太郎 作詞
 不 明 作曲
 (明治36年頃)

3. 御崎小学校 運動歌

1. かすみで 見ゆる 島々や
 金波 銀波の 波静か
 御崎の 丘に 天高く
 立てるは われらが 御崎校
2. 福浦の 山に 月澄みて
 御崎の かに 波清し
 名残りの 松の 松籟は
 われらが 里の 子守歌
3. 朔風さくふうに 高なる 潮との音に
 雄叫びお 合わせて 励みたる
 この鉄くろかねの 双肩そうけんに
 未来の 日本 かかるなり
4. 祖先の 後つを 受け継いで
 学び 勤しむ 四百の
 われわれ 御崎の 健児らは
 燃ゆる 意気こそ いやたかし
5. 希望の 船に 勇しく
 学びの 風を 帆に はらみ
 理想に 進む 未来には
 さんたる 光明 輝けり

不 明 作詞
 不 明 作曲
 (昭和27年9月20日)

4. 坂越^{豊常}小学校 運動唱歌

1. 北に聳ゆる宝珠山 南は清き坂越浦
ちふねの海を見おろして 風光明媚な丘の上
2. ここぞ我等の運動場 晴れたる今日の一日を
いざ我が友ようちつれて 愉快に遊びはげまなん
3. 春は若葉のもえいずる 山に登らん元気よく
れんげ菜種の咲匂う 千種川辺に散歩せん
4. 夏の暑さをよそに見て 坂越の浦のボート漕ぎ
海水浴に日は暮れて 渚に語る夕涼み
5. 宝珠の峯に秋たちて 紅葉そめたる船岡園
ああ忠臣は高德の 忠義語らん我が友よ
6. 肌をつんざく浜風も 峯をかすめる寒風も
テニス鬼ごと駈けくらべ 共に我等の友なるぞ
7. 名所旧跡数多く 四季の眺めを友として
日夜に学ぶ我々は 幸こそ多きわらべなれ
8. ふみにもしるき秦公の 住まわれしちよう生島は
ときわの木々の深くして 世にうたわれる記念林
9. いまだ我等幼きも 智徳を磨き身を鍛え
御国のために尽すべき 時こそやがてきたるなれ

北川庄五郎 作詞
(鉄道唱歌で) 作曲
(昭和6年 月 日)

5. 高雄小学校校歌

1. 我が大君の いと深き
恵の露に うるおいて
日毎 月毎 栄え行く
学の園こそ 楽しけれ
2. ときわがきわに 雨風を
そそぎて岸に 立つ巖の
堅さ強さに たぐへつつ
身を健やかに 保ちけん
3. 幾千代までも 澄み渡る
源たえぬ 千種川
清き流れの 真心を
君と親とに つくせかし
4. よろずよかけて ゆるぎなく
み空に立てる 高雄山
け高き姿を 鏡とし
学の技に はげめかし

不 明 作詞
不 明 作曲
(明治41年 月 日)

6. 高 雄 名 所

- (中山) 家は一列 山添いで 青空高く 鳩がとぶ
千種大川 大いぜき 広い市内の 水の茎
- (真殿) 奥は深いぞ 松みどり 岩間かざって 白い滝
村を鎮めの 天神は 杉の木の間に 見えかくれ
- (周世) 寺は山寺 文覚の 連立なされた 神護寺
大石記念の 手水鉢 霊泉わいて 人を待つ
- (根木) ここは高雄の 真ん中で 支所に支局に 幼稚園
農協、学校、駐在所 尼子山から 日がのぼる
- (目坂) 月はまだかと 待ちかねて パッと開いた 月見草
山のふもとの 常徳寺 銀杏 紅葉のあでやかさ
- (木津) 山の手こんもり 大避さん 手納の大寺 竜泉寺
団地を次て 木津の里 春のそよ風 日はうらら (炭坑節で)

M イヤー 高雄群山 むらさきそめて ハヨイト ヨイト
広い田の面に エーマタ 朝がくる
スッチョイ スッチョイ スッチョイナ

M イヤー 千種川辺に 白さぎとんで ハヨイト ヨイト
風もほがらに エーマタ 長づつみ
スッチョイ スッチョイ スッチョイナ (会津ばんだい山で)

不 明 作詞
(炭坑節で) 作曲

7. 婦 人 の つ ど い

1. おはよう おはよう
明るい家庭に ひびきあう
母の思いと 子のねがい
花咲く明日を 育てたい
高めましょう 婦人のつどい
広げましょう 婦人のつどい
2. こんにちは こんにちは
出逢いの人に 声かける
交わす笑顔の 地域の和
あなたと私 手をとって
高めましょう 婦人のつどい
広げましょう 婦人のつどい
3. ありがとう ありがとう
感謝の気持ち かよいあう
赤穂のまちの 輝きに
千種の川も ほほえんで
高めましょう 婦人のつどい
広げましょう 婦人のつどい

樽家清子 作詞
赤松秀幸 作曲
(作譜中)

8. 有年小唄

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 普門院 <small>ふもんいん</small> から
めぐる深山 <small>みやま</small> の
桜 <small>さくら</small> ぱらりと
登る句標 <small>こくひら</small> に
さっさよいよい | うぐいす <small>な</small> 啼けばヨ
ゆのけむり
山路 <small>さんろ</small> をそめて
花が散る (ソレ)
花が散る | 4. 紅葉色 <small>もみじ</small> づく
晴れてうれしい
祭り囃子 <small>まじり</small> が
嫁 <small>よめ</small> したあの娘も
さっさよいよい | 鎮守 <small>ちんしゆ</small> の森にヨ
宮詣り
穂並 <small>ほなみ</small> に冴えて
里 <small>さと</small> がえり (ソレ)
里がえり |
| 2. 魚籠 <small>いさな</small> を片手 <small>ひとて</small> に
逢うて解け合う
川の瀬 <small>せ</small> と瀬を
鮎 <small>あぶら</small> の飛沫 <small>しぶき</small> に
さっさよいよい | 微風 <small>そよかぜ</small> うけてヨ
千種川
恋 <small>こひ</small> がれてのぼる
濡 <small>ぬ</small> れて釣る (ソレ)
濡れて釣る | 5. 咽 <small>むせ</small> ぶ灯 <small>ともしび</small> が
積る古墳
星 <small>ほし</small> がまたたく
昔 <small>むかし</small> のんで
さっさよいよい | 粉雪 <small>こなゆき</small> に暮れてヨ
綿帽子
蟻無山 <small>あななし</small> に
鐘 <small>かね</small> がなる (ソレ)
鐘がなる |
| 3. 月 <small>つき</small> が <small>ゆかた</small> 出ました
粋 <small>いき</small> な浴衣の
好 <small>この</small> いた同志が
祈 <small>いのち</small> る二人の
さっさよいよい | 小鷹 <small>こたか</small> の山 <small>やま</small> にヨ
影法師
観音 <small>くわんおん</small> さまに
あで姿 (ソレ)
あで姿 | 6. 有年 <small>あねん</small> は良 <small>よ</small> いとこ
揺れる稲穂 <small>いなほ</small> に
姉 <small>あね</small> さかぶりの
伸 <small>の</small> びる繁昌 <small>はんしょう</small> の
さっさよいよい | 朝霧 <small>あさぎり</small> 晴れてヨ
花 <small>はな</small> が咲く
あの娘 <small>あのむすめ</small> の唄 <small>うた</small> に
黄金色 <small>おうごんいろ</small> (ソレ)
黄金色 |

池本和 一 作詞
池本まさる 作曲
伊藤知子 編曲

○この小唄の発表会は、新しく建てられた横尾の公会堂で行われました。

9. 田舎の四季

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 道をはさんで
麦は穂が出る
眠る蝶々
吹くや春風
あちらこちらに
日まし日ましに | 畑一面に
菜は花盛り
とび立つひばり
たもとも軽く
桑つむ少女
春蚕も太る | 3. 二百十日も
村の祭の
稲は実がある
刈ってひろげて
もみに仕上げて
家内そろって | 事なくすんで
太鼓がひびく
日和はつづく
日に乾かして
俵につめて
笑顔に笑顔 |
| 2. ならぶ菅笠
歌いながらに
ながい夏の日
植える手先に
かえる道々
葉末葉末に | 涼しいこえで
植え行く早苗
いつしか暮れて
月かげ動く
あと見かえれば
夜つゆが光る | 4. そだち折りたく
夜はよもやま
母が手ぎわの
これも田舎の
棚の餅ひく
更けて軒端に | いろりのそばで
話がはずむ
大根なます
年越し肴
ねずみの音も
雪降り積もる |

○大正10年頃唄われていました。

赤穂地方の民謡（その1）

赤 松 秀 幸

はじめに

最近、われわれの生活が急速に機械化され、合理化されるに従って、古くから歌い継がれてきた赤穂の民謡は消滅しつつある。

これらの民謡は、私達の祖先の風俗、習慣、伝説、信仰などの上に芽ばえたものであるため、この文化遺産を後世に伝えるべくここに採譜したのである。

1. 採譜について

盆踊りに歌われるような集団伝承的な唄は比較的滅びにくい、個人伝承的なものは失われやすい。特に後者は、人により時により歌詞により旋律の変動が多くみられ、「緞通織唄」や「おしと唄」などはその例である。個人演唱の録音テープからもわかるように、同じ旋律を1番・2番と歌っているが、採譜してみると多少の相異がある。

そこでこのような曲に比較的多い偶発的な誤唱と、意識的な変唱とを区別し、意識下にあるリズムや旋律による底流をも探索するよう努め、「最大公約数的作譜」を試みたのである。

また、歌詞の吟味は重要な手掛りを与えてくれることが多く、特に民謡は芸術歌曲以上に歌詞の詩型、アクセント、イントネーションが旋律やリズムに影響を与えているので、歌詞の採集も重要なことと考え、全て歌われたものを記しておいた。

2. 比較譜の意味するもの

採譜の中心課題は旋律法のメリスマと拍節法の記譜法であり、採譜に際してはできるだけ忠実な楽譜が要求されるということである。しかし1つの唄が、その地方性や演唱者や労働内容の相異によって可変的であることが多く、採譜の場合には、一連のメリスマ的旋律の中での中核的な意味をもつ音を、他の音と区別しなければならない。そこで1つの唄のヴァリエーションとして2、3曲が採譜できたとき、初めて比較譜の観察ができる。浜鋤歌と石つき唄の比較譜をみて次のことが明瞭になっていく。

イ、不変の中核的音が明確になっていく。

ロ、偶然的な要素を、五線に絶対化することから解放される。

ハ、曲の発生や原型がわからないにしても、養父、宍粟、相生、赤穂の範囲で人々の生活や労働力の移動が、旋律の同型であることから予想される。

3. 民謡継承の一方途について

最近、多くの日本民謡がオーケストレーションされ、又合唱曲にアレンジされて演奏されるようになった。「おしと唄」や「浜鋤唄」は、5音音階を中心とした中から拾った音を主旋律の支えとして和音構成し、カノンの手法を加えて混声4部合唱に編曲したものであるが、このような曲を演奏していくことによって、

イ、人間本来の素朴で自由な感情を歌ったものにふれ、

ロ、和音構成がかもしだす日本民謡特有の和音美を味わい、

ハ、先人達による風俗、習慣、伝説、信仰などの上に芽ばえたこの文化遺産を深く知ることにより、われわれの音楽美を感得し、民謡を愛好する心情を養うことができるだろうし、すぐれた民謡を継承し、ひいては地方文化の向上へと発展させたいものである。

御船歌について

1. 御船歌の由来

その発生、或は伝来については確証がない。文献的には文政年間の歌詞の写本が残っている程度である。それより以前のものであったようだが現存しない。

伝承では御座船が島津公の参勤交代用の船であったために、それと共に幕末に伝来したのではないかという人もあるが、年代的に適当でなく、船とは関係がないであろう。

宮本常一先生（山口県、広島県、民俗資料専門委員）の調査（昭和41年11月4日）では、むしろ室津港からの伝来で、時代は室町期頃といわれる。室町頃の歌詞を残していることは事実である。

2. 歌われる祭礼と時期

坂越町にある大避神社は、大化の改新に際して蘇我氏の難をさげ、坂越に流れついた秦河勝公をまつる祭礼で、毎年10月11日に「海上渡御」などが行われる。

3. 中世以前の音構成と思われる理由

「御船歌」の全曲を通じて、明確なほど、 \dot{g} 、 \dot{g} 、 \dot{c} 、 \dot{c} 音が支配しており、歌い出しと終止音も \dot{g} である。これは正格旋法（Authentic mode 型）（小泉文夫著による日本伝統音楽研究の核音による旋律構造の種類5）で、上からテトラコルド（4度）＋ペンタコルド（5度）による音構成と考えられる。

「御船歌」でいうと、 \dot{c} から \dot{g} までのテトラコルドと、 \dot{g} から \dot{c} までのペンタコルドで、この旋律構造と核音を正格旋法といい、雅楽や一部の民謡などに見られるテトラコルドの第3種から生じた音階である。この種の曲には、近世初期から以降の民謡の中には比較的少なく、雅楽や声明が時代と共に変化した芸術音楽に多い。

歌詞は春夏秋冬と四季をうたい、7・5調である上に、民謡のような旋律型でなく、詩のフレーズが非常に長く、拍子感がない。

これらを総合的にみて、中世の叙事歌謡の流れをくむ語感にふさわしいもの（口説）とも考えられる上、前述のように、音構成による「核音」の特徴や、正格旋法から考えて中世以前の音楽の流れを歌い継がれている日本音楽と考えられる。

中世近世歌謡集、松の葉第一巻、裏組四「早舟」より「御座船」を歌ったもの。

沖の引く汐に、竹に油を塗るやうに、
とろりとろりと歌ふて名乗りて、
漕ぐや船方はえい、上様の御座船か、
またのんえいそれ、
艙では遣らいで唄でやる。

赤穂地方の民俗芸能

赤 松 秀 幸

I 天和の獅子舞いについて

・保存団体	赤穂市天和青年団	
・録音月日	昭和43年10月25日	
・録音場所	赤穂市天和	
・楽器編成	笛	2名
	締太鼓	1名
	大太鼓	1名
・獅子舞い	舞い方	2名
・唐子		4名

赤穂市天和に伝わる獅子舞いは、毎年10月25日、荒神社の秋祭に奉納されるが、この獅子舞いの発生や伝承経路については確としたものがない。

1. 獅子について

獅子は古く伎楽、舞楽にあり、また散楽にもあったようであるが、猿楽・田楽衆もとりいれて、祭事にもくみこまれ、年を経るに従って、各種の変化を生じ、獅子のみが独立するもの、曲芸その他を伴って演ずるものになったといわれている。

また、いわゆる大神楽は、伊勢や尾張におこったといわれ、文政13年（1830）刊の吾多村信節の「嬉遊笑覧」五に、

獅子舞は伊勢や尾張に大神楽ということあれば、それによりて名付たる歟、また代神楽とも書るは、代参り代垢離などの意にやあらむ。……

大神楽に伊勢派と尾張派とに流あり、尾張熱田の地にも獅子頭の一種ありて、是も獅子を舞し歩行を、大神楽といふといへり。

とあり、16世紀初の室町時代の半ば頃、「筠庭雑考」に

それししまいと申は、江州ゆふき大明神の御つかはしめなれば、天下のきとうのため六十六ヶ国へ六十六のししがしらをつくらせ、かんぬし共これをいただき、春のはじめ太鼓をたたき舞出たまふとや、此音に悪神万里を去り、わらべのいもはしか諸病をのぞき、あし手がんじゃうに、むしはらおこらず思ひのままなるもこの神のいとくなり

とある。

また、大神楽の獅子の特徴は、獅子はもともと2人立ちであるが、1人にもなり、神歌や散楽風な曲芸を演じ歌うなどがある。

2. 天和獅子の曲目

獅子が舞うまず最初に次のような歌が歌われる。

「たんじゃくへ おのさもで
悪魔を払へ 太平楽世とあらたまる」
「今年は豊年 稲に穂が咲いた
まずはさておいて この身ではかれ」

イ、桜の舞

宮舞いや道中舞いでは、まずこの舞いから始められ、桜をもった唐子と獅子によって演じられる。

ロ、お車舞

ささらをもった唐子4人が獅子と演じ、締大太鼓を打ちながら1人2役で歌われる。

歌詞の特徴

アラ ヨイセ
淀の川瀬のエ わたしや水車
ヨイセ コラセ
誰を ヨイ 待つやら
ヨイヤコリヤ
くるくると
サッサ
ヤントコセーノ ヨイヤナ
アレワトサッサ コレワトサッサ

この歌謡は「7・5・7・5」調で、閑吟集64の次の歌謡に類似している。

「宇治の川せの水車 なにとうき世をめぐらふ」

又、この歌謡は、阿国歌舞伎草紙・謡曲「歌舞伎」延宝3年(1675年)年書写踊歌・居合踊歌にみられる。

又、「歌舞伎草子」の類によって知られるこの阿国歌舞伎の芸能の中心は舞踊であり、その一部分は、庶民の間に行われた民俗舞踊の一つ、念仏踊である。

この念仏踊で歌われる小歌6首の中に

「あただ浮世は 生木に鉋じゃとなふ
思ひまはせば 気の毒や」
「あただお国は 柚の木に猫じゃとなふ
思ひまはせば 気の薬」
「淀の川瀬の 水車
誰を待つやら くるくると」
.....

念仏のリズム

「なむあみだぶつ なむあみだ
なむあみだぶつ なむあみだ」

の7・5・7・5調に合う歌謡が中心になっている念仏踊の影響は注目されよう。

音楽的特徴

○天和獅子舞に演奏される囃子は、全曲で14曲といわれ、そのうち歌謡を伴って演じられるものは、この「お車舞」ともう一曲といわれる。

○演奏形式

A-B-C-B-C-B-C-B-A

○演奏時間

8分

○調と拍子と実音

旋律構造の基本をなす4種のテトラコードのうち、第1種を民謡・第2種の都節によるものと思われる。

拍子は2拍で明確なリズムである。又、採譜されている音より実音は半音低い。

長い歴史のなかで、しかも各地方に広がった獅子舞は、多くの芸能を吸収して今日に至っている。

Ⅱ 坂越の船壇尻について

- ・保存団体 赤穂市坂越壇尻保存会
- ・録音月日 昭和44年10月18日
- ・録音場所 赤穂市坂越
- ・編成楽器

笛	5名
締太鼓	5名
太鼓	2名
半鐘	1名

赤穂市坂越にある大避神社の祭礼（10月11日）の前日にこの海壇尻が行われる。

昭和22年秋以来、この催が途絶えていたが、昭和44年、御輿の修理を機として催ものの計画が企てられた。そのための練習日程の概略は次の通りである。

1. 準備期間 7月25日 — 7月30日
2. 稽古期間 8月1日 — 9月26日
3. 稽古上げ 9月27日
4. 練習のための延べ人数 205人

1. 舞台のつくり

2艘の船に唐破風様式の上屋を組み、まねきを2本だし、ごへいを1本立てる。舞台は、二重上・下、出入口・囃子部屋・楽屋を設け、そこで歌舞伎を演じ、離陸・着船・又は沖合いを流し、豪壮優美な囃子がはいる。

2. 曲 目

イ、下り (Allegro)	締・太
ロ、祇園囃子 (Moderato)	笛・締・太・半
ハ、しゃぎり (Moderato)	笛・締
ニ、流し (Presto)	締・太・半
ホ、デンガラカ ()	—

3. 片仮名譜と採譜から

- イ、片仮名譜（笛）が恐らく記憶によるものと思われるが、笛のための楽譜というよりは寧ろリズム楽器のために記譜されている。
- ロ、「ト」という字は1拍休符である。
- ハ、その他の片仮名と、笛の音程とは全く無関係である。

あ と が き

昨年「赤穂のしごとうた・わらべうた」の冊子を刊行して、数多くの方々から温かい激励や助言を寄せていただき、編集者として有難いことでありました。

とりわけ、録音テープも同時に出してくれるよう要望がございましたが、残念なことに今回も期待に添えることができませんでした。

また、調査員の先生におかれましては、それぞれの仕事の合い間の調査活動であり、少人数の調査をご無理願ひ、またまた調査地区、伝承者も限定する結果になってしまい、初期の目的を十分果たせずに終わってしまいました。

しかし、この調査は、今回限り終わらせることなく、引き続き長い年月をかけて、末長く「赤穂のうた」調査を完成していきたいと思っておりますので、今後とも市民各位から、全地域からの熱意のこもる力添えをいただきまして、貴重な情報資料を提供していただきますようお願いいたします。

最後に、この調査採譜にあたって、ご尽力、ご協力いただいた方々のお名前を記し、謝意を表します。

調査員

赤松 秀幸（兵庫県立赤穂高等学校教諭）

友道令江子（兵庫県立赤穂養護学校講師）

伝承者

榊 静江（赤穂）	明治34年生	矢野てるゑ（赤穂）	明治37年生
突々 久雄（赤穂）	明治38年生	小川 政孝（赤穂）	明治40年生
小国 政江（赤穂）	明治41年生	西山 末子（赤穂）	明治41年生
三谷 百々（赤穂）	大正15年生	西山 幸子（赤穂）	昭和15年生
田淵 吟三（塩屋）	明治27年生	折田 浜治（塩屋）	明治30年生
西中正次郎（塩屋）	大正5年生	松下松太郎（御崎）	明治28年生
藤本 いか（御崎）	明治32年生	福田大治郎（坂越）	明治36年生
井筒勘治郎（坂越）	明治38年生	高見 一三（有年）	明治44年生
井筒 高男（有年）	大正4年生	井上 為雄（有年）	大正6年生
出口 孝司（有年）	大正8年生		

調査協力者

西中正次郎 (塩屋)

長棟 三枝 (塩屋)

山脇文次郎 (御崎)

宮下 齊 (有年)

沖 末子 (有年)

上飯屋老人会

塩屋東老人会

天和獅子舞保存会

御崎東屋台保存会

御崎西屋台保存会

御崎地区老人会連合会

坂越壇尻保存会

鳥井町曳とんど保存会

有年屋台保存会

東有年老人会

赤穂民俗研究会

赤穂市連合婦人会

赤穂市

河部 昌弘 (さし絵)

福井 良実 (浄書)

茶谷 雅子 (浄書)

(敬称略・順不同)

赤穂市文化財調査報告書 17

赤穂のしごとうた・わらべうた 第2集

昭和61年3月31日

編集
発行

赤穂市教育委員会

〒678-02 赤穂市加里屋81番地

☎07914-3-3201

印刷

中村印刷有限公司

〒678-02 赤穂市中広1359番地の5

☎07914-2-2158
